

2023年12月期 決算説明資料

2024年2月21日
大倉工業株式会社



01. 2023年12月期 決算概要

02. 2024年12月期 業績予想

03. サステナビリティの推進

04. 資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応について

05. 参考資料



2023年12月期 決算概要

1

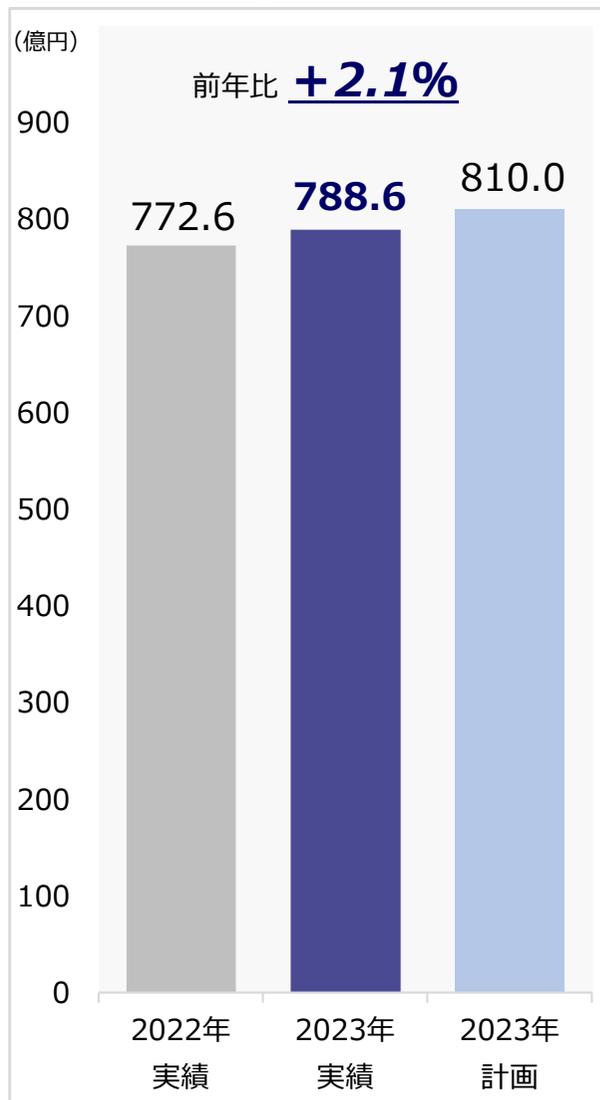
夢がある。技術がある。未来ができる。

当期間における当社事業に係る市場動向

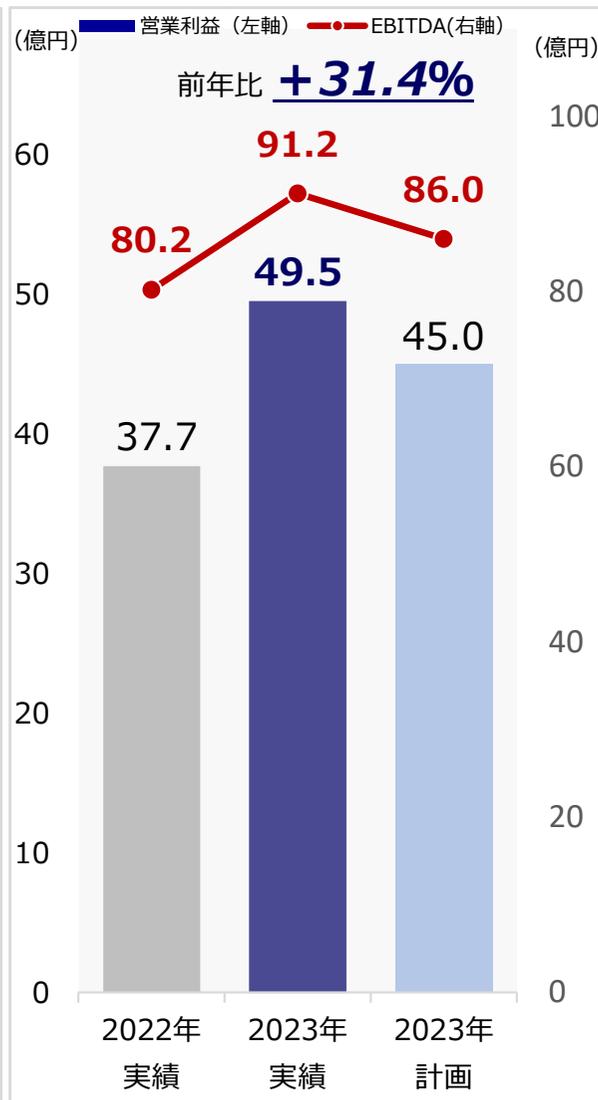
国内市場	2023年第4四半期の国産ナフサ価格は72,800円/KLとなり、前年の第4四半期比では、ほぼ同じ水準で高止まり
	インバウンド消費の増加により、外食及びサービス業の回復が見られるものの、物価上昇等による買い控えがあり、食品や日用品の需要は減少
	2023年12月の国内木材価格は、ピーク時（2021年8月）から14.1%減の16,400円/m ³ 。2023年の新設住宅着工戸数は、前年比4.7%減の854,979戸
海外市場	大型TV向けの偏光板需要が回復基調。中国偏光板メーカーの生産能力増強に伴い広幅化が進む
	2023年の世界スマートフォン出荷台数は、前年比3.2%減の11億7000万台で過去10年で最低水準。パソコン、タブレットも低調。また、半導体市場も低迷
	自動車産業の生産回復により関連需要が増加(国内外)。国内の生産台数は12か月連続で前年比増
	中国内の日本製食品、飲料、日用品等の需要減少で、パッケージ需要も減少

連結売上高、連結営業利益

【連結売上高】

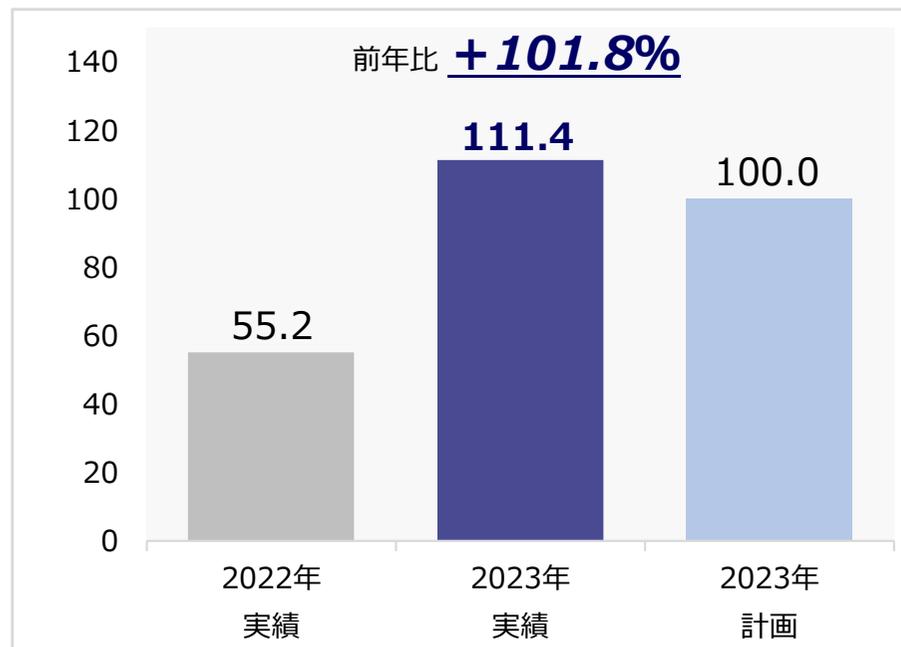


【連結営業利益】



	需要増 ↑	需要減 ↓
合成樹脂業	● 環境貢献製品は堅調	● 食品向け、農業用途は苦戦 ● 工業用途は在庫調整局面で低調
新規材料事業	● 車載用途の機能性材料が好調 ● 大型液晶パネル用途の需要回復	● 中小型パネル向けは在庫調整局面で減少
建事 材業	● パーティクルボードは堅調 ● 水廻り・内装分野はマンション着工数増により堅調	● プレカット事業は新設戸建住宅着工戸数減により苦戦
その他関連事業	● ホテル事業の宿泊と宴会の需要が回復基調	

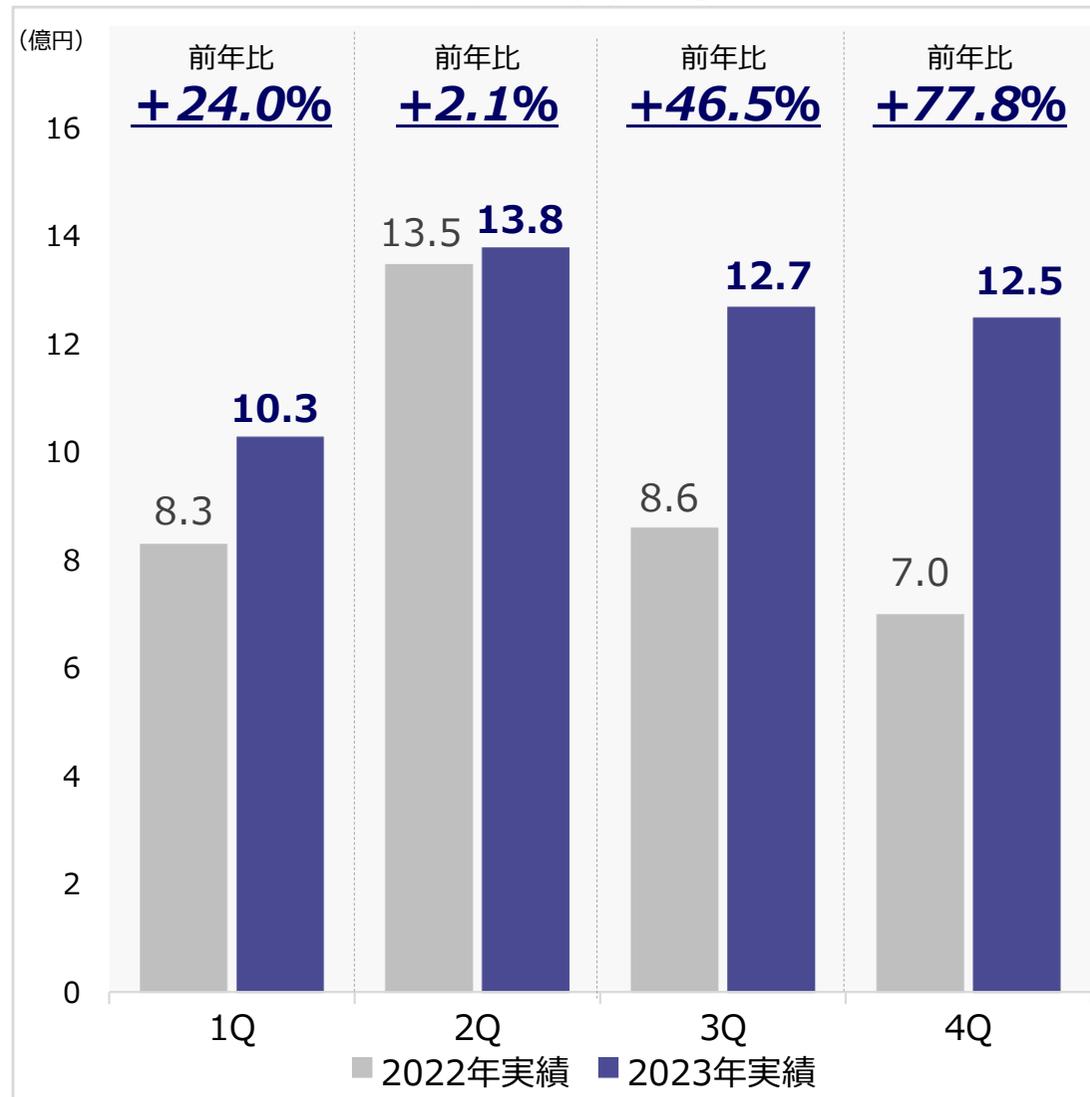
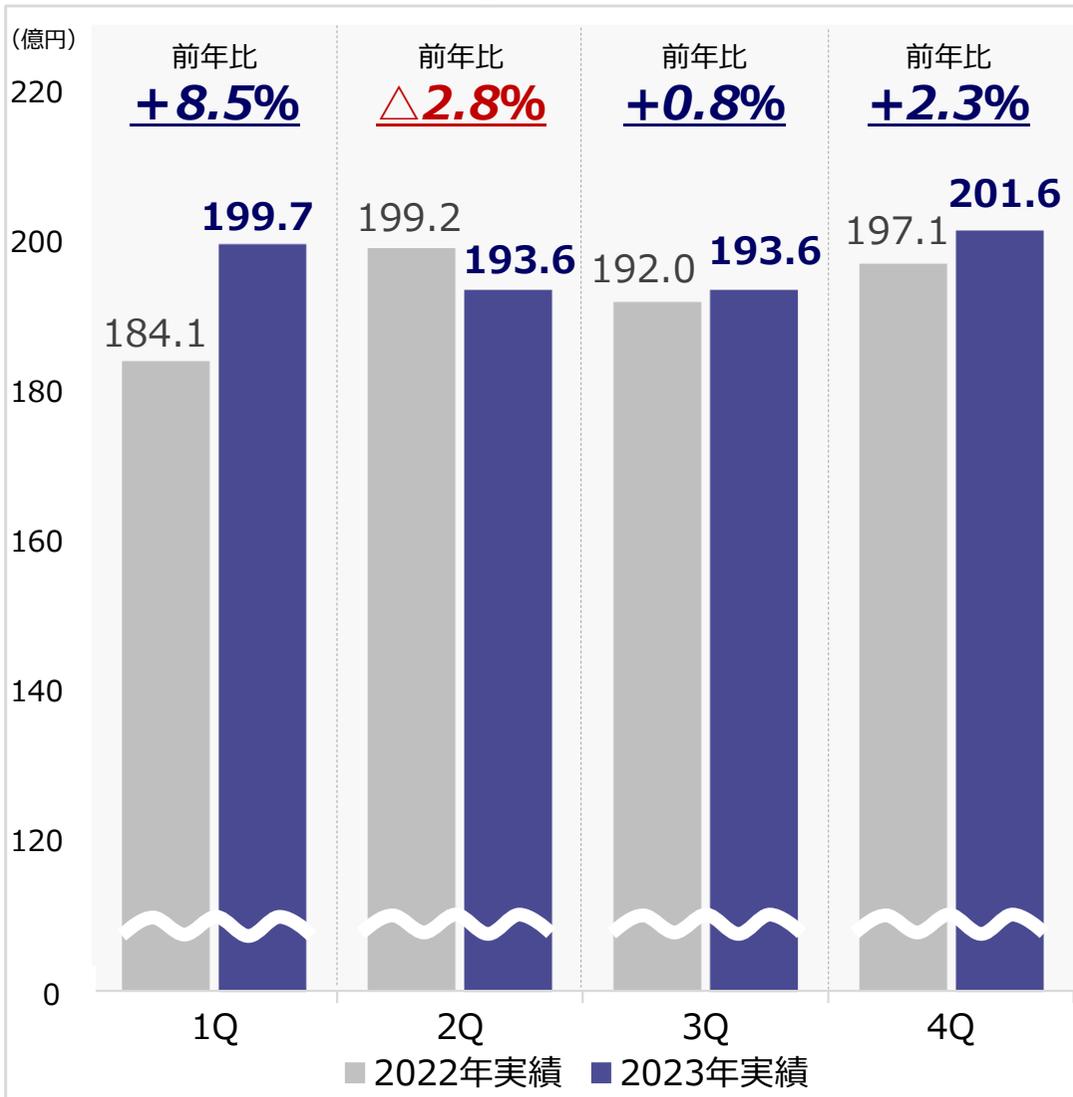
【設備投資（工事ベース）】



四半期別売上高、営業利益推移

【連結売上高】

【連結営業利益】



セグメント別売上高、営業利益増減

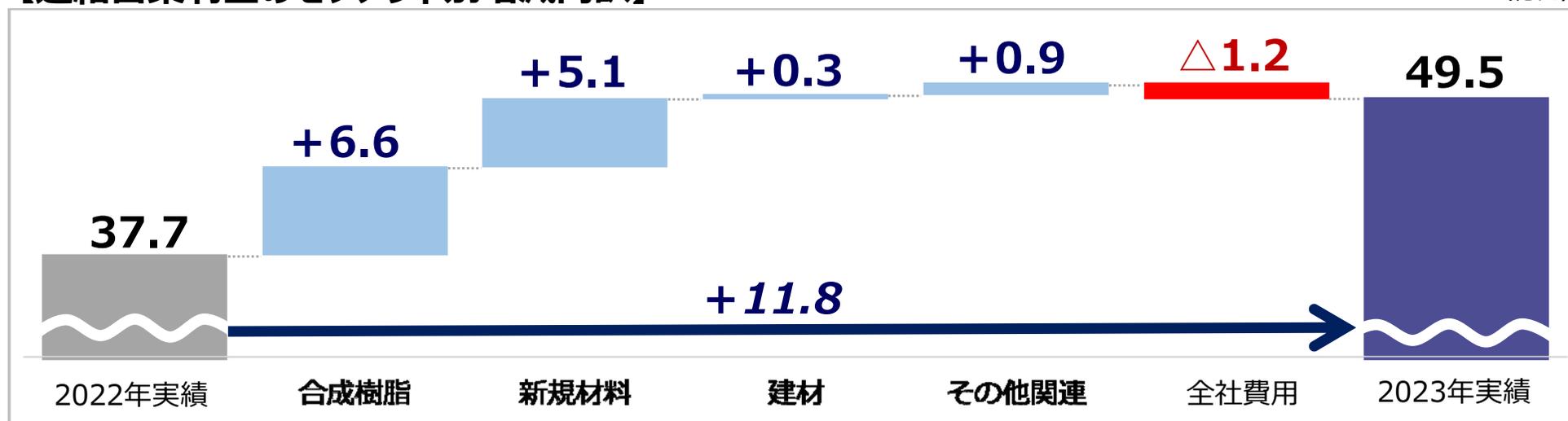
【連結売上高のセグメント別増減内訳】

(億円)



【連結営業利益のセグメント別増減内訳】

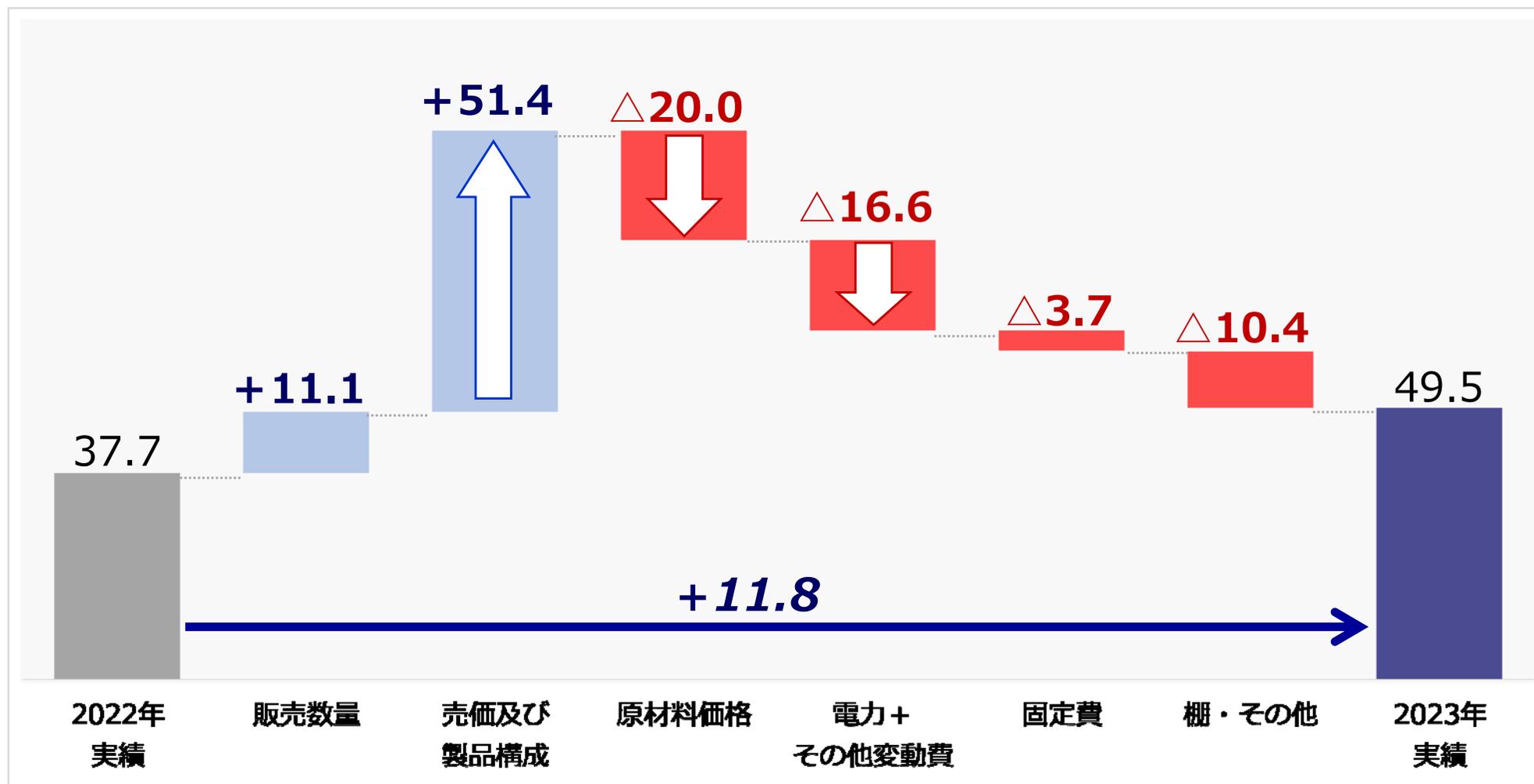
(億円)



連結営業利益増減

【連結営業利益増減内訳】

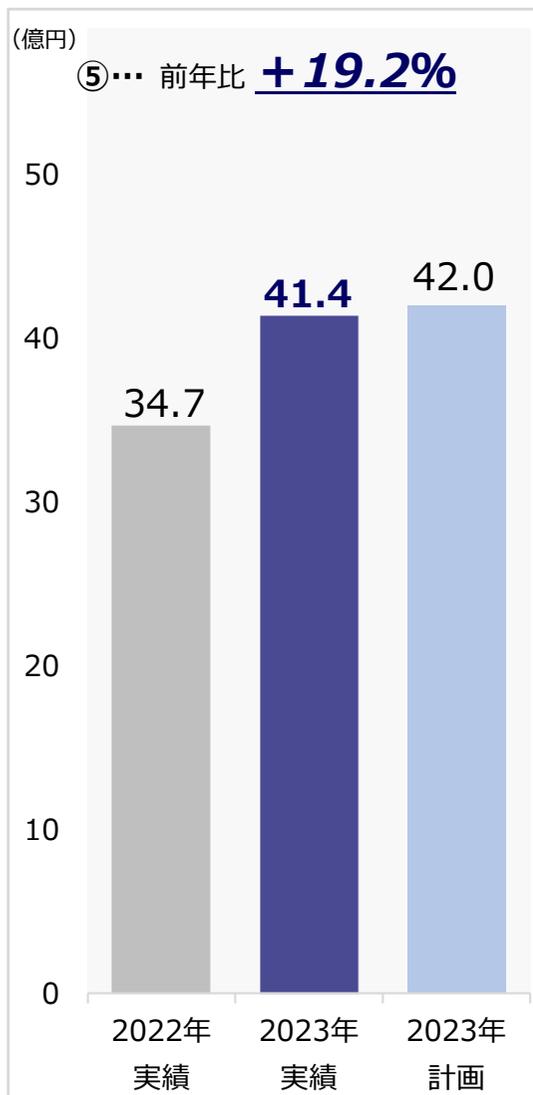
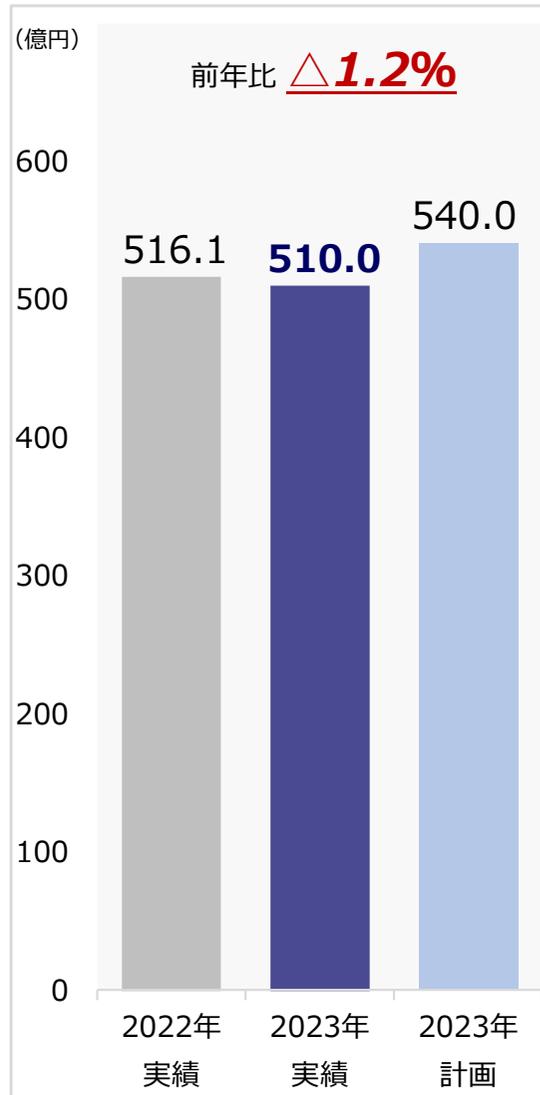
(億円)



合成樹脂事業

【売上高】

【営業利益】



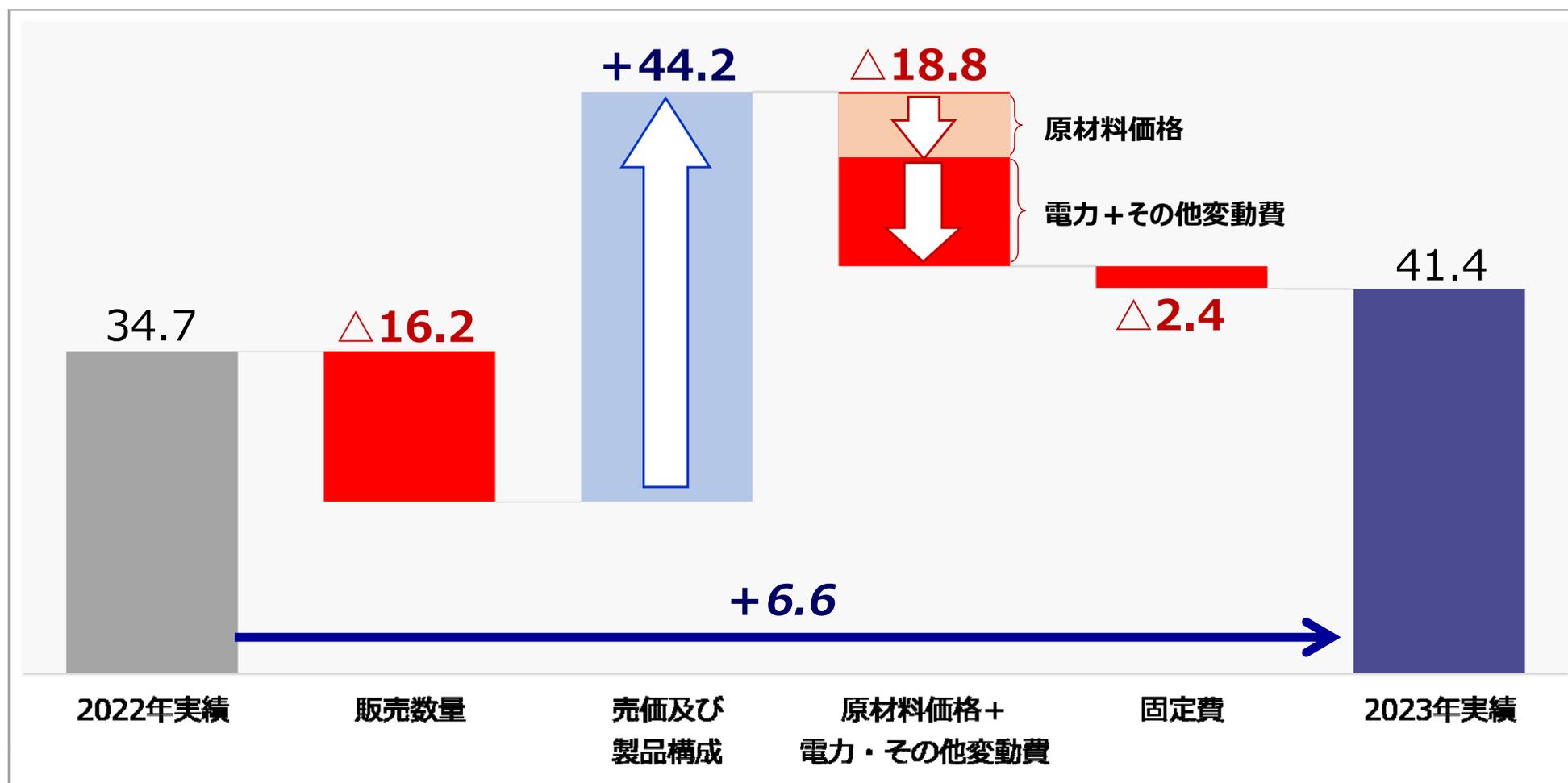
【BU別売上高】	2023年 (百万円)	前年比
ライフ & パッケージ B U	17,885	①... $\triangle 3.4\%$
シュリンクフィルム	9,601	$\triangle 1.3\%$
軟 包 材	6,371	$\triangle 9.6\%$
リキッドパック	1,913	+9.4%
プロセスマテリアル B U	6,262	②... $\triangle 7.3\%$
ベーシックマテリアル B U	20,085	③... +1.5%
アグリマテリアル B U	5,483	④... $\triangle 0.5\%$
そ の 他	1,288	+23.8%
合 計	51,005	$\triangle 1.2\%$

- ① 消費者の購買意欲低迷により食品関係、日用品関係のフィルムが減少。中国の需要減少によりパッケージの輸出も減少
- ② 市況悪化による在庫調整が継続し、電子材料用プロテクトフィルムが苦戦
- ③ 販売数量は減少したものの、製品価格転嫁が奏功し売上高は堅調に推移
- ④ 前年需要の反動や生産者の買い控え等により販売数量が減少
- ⑤ 継続的な販売価格の転嫁、生産性の向上によるコスト削減により増益

合成樹脂事業

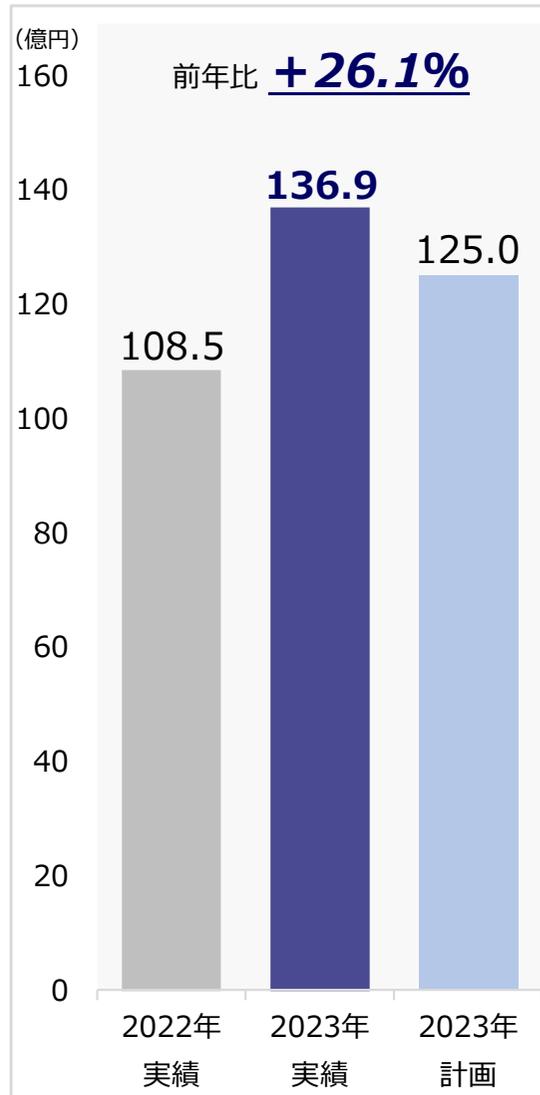
【営業利益増減内訳】

(億円)

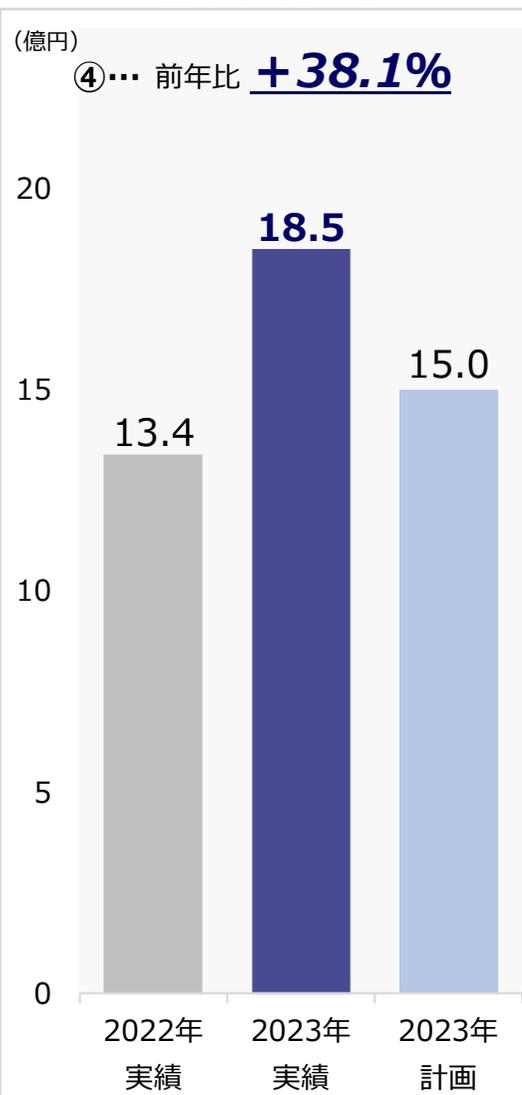


新規材料事業

【売上高】



【営業利益】

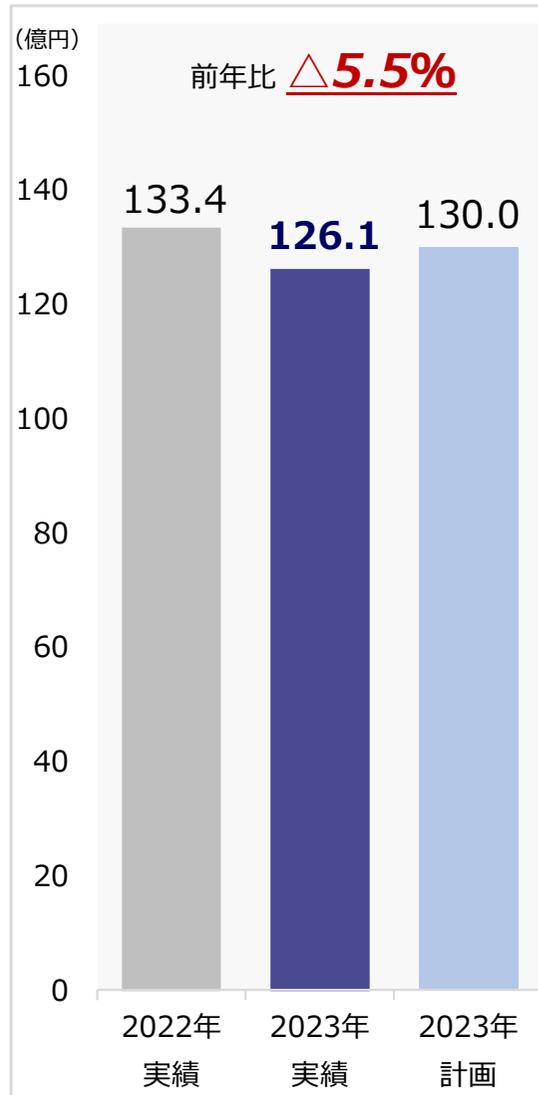


【BU別売上高】	2023年 (百万円)	前年比
機能材料BU	3,559	①... +21.4%
電子材料BU	2,192	②... △6.7%
光学材料BU	7,856	③... +43.0%
商品他	84	+5.8%
合計	13,691	+26.1%

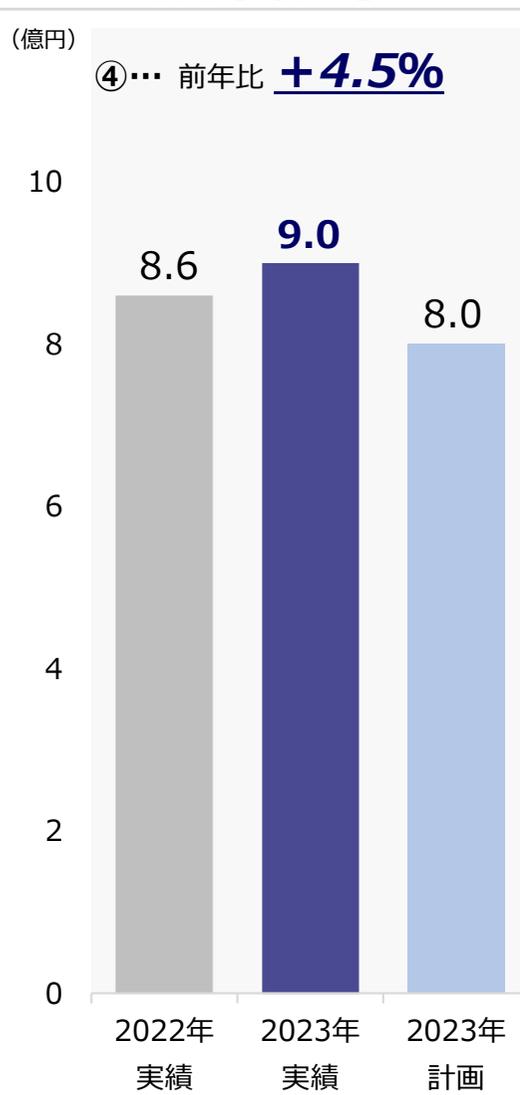
- ① 車載用途の機能性材料フィルム（ヘッドレスト用及びペイントプロテクションフィルム）、封止材用基材フィルムの販売が好調に推移
- ② スマホ・タブレット等の中小型パネル向けの需要減少が影響
- ③ 大型液晶パネル向け光学フィルムは需要が回復し好調に推移
- ④ 売上の増加に加え歩留り改善、生産性の向上に取り組んだことにより増益

建材事業

【売上高】



【営業利益】



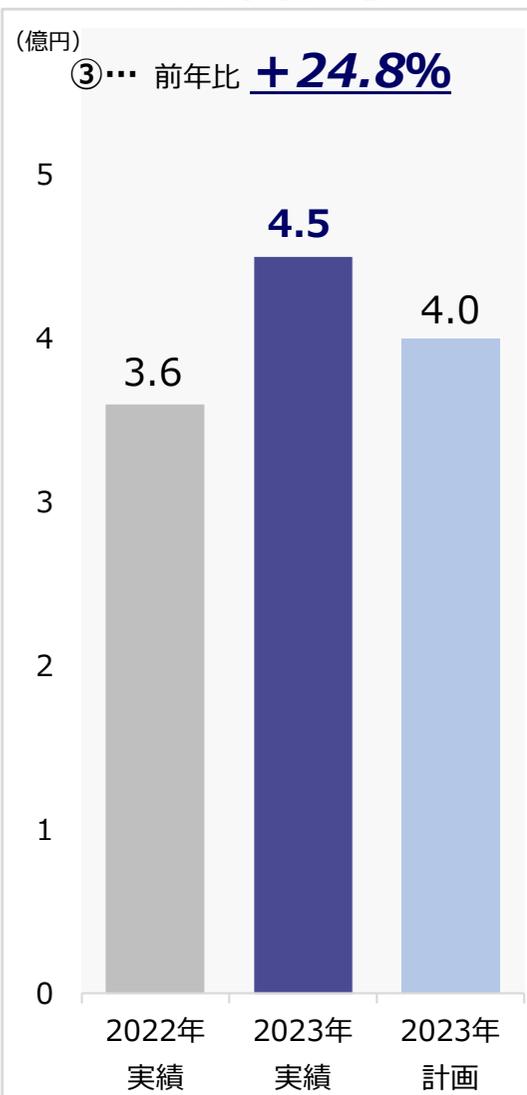
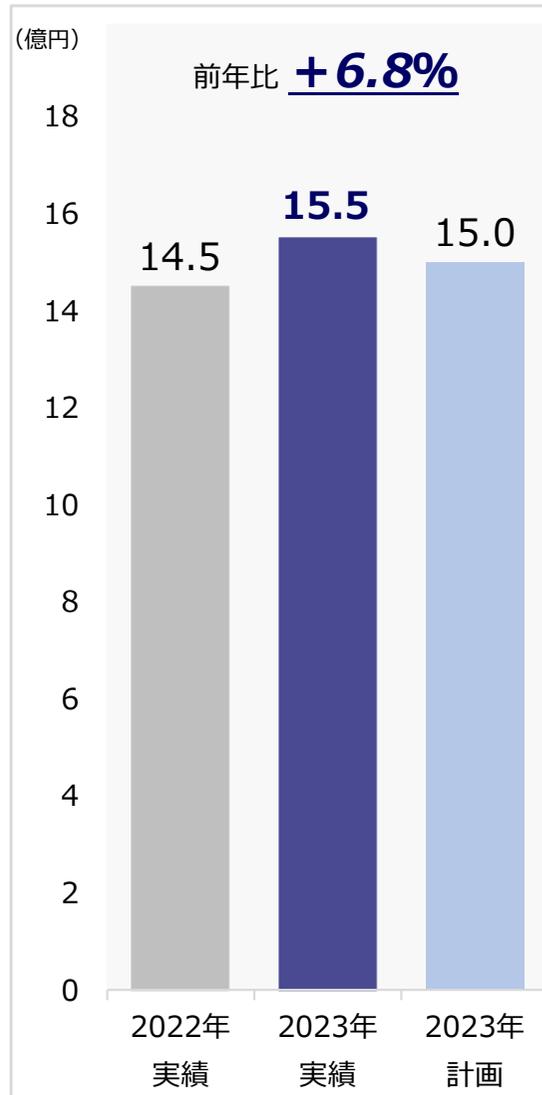
【製品別売上高】	2023年 (百万円)	前年比
パーティクルボード製品	7,685	①... +6.0%
環境資材製品	794	②... $\triangle 19.7\%$
住宅部材製品	432	+20.1%
ハウス事業	1,121	+1.1%
プレカット事業	2,854	③... $\triangle 27.2\%$
消去・組替	$\triangle 275$	-
合計	12,612	$\triangle 5.5\%$

①	キッチン、洗面台等の内装用の加工ボードの拡販で増収
②	コンパネの価格の下落と建築需要の低下を受け、環境貢献型枠「木守®」の販売が低調
③	木材価格の下落、住宅着工の悪化により減収
④	パーティクルボードの安定生産継続に注力したこと、付加価値の高い製品の売上増加が寄与し増益

その他関連事業

【売上高】

【営業利益】



【事業別売上高】	2023年 (百万円)	前年比
ホテル事業	804	①… +34.4%
情報処理事業	1,419	②… +0.5%
賃貸事業	553	△14.9%
消去・組替	△1,222	-
合計	1,553	+6.8%

- ① 新型コロナウイルスによる行動制限の緩和により、宿泊や宴会が回復
- ② システム開発が堅調に推移したことにより増収
- ③ 売上高の増加と固定費の削減等により増益

連結損益計算書

(億円)

	2022年	2023年	増減額	主な内訳
売上高	772.6	788.6	+16.0	
営業利益	37.7	49.5	+11.8	
営業外収益	5.7	5.2	△0.4	
営業外費用	0.7	0.6	△0.0	
経常利益	42.7	54.1	+11.4	
特別利益	15.4	4.3	△11.0	【前期】固定資産売却益：15.4 【当期】投資有価証券売却益：4.2
特別損失	5.3	1.6	△3.7	
税金等調整前 当期純利益	52.7	56.8	+4.1	
法人税等	14.9	13.7	△1.2	
親会社株主に帰属する 当期純利益	37.8	43.1	+5.2	
R O E	7.0%	7.4%	+0.4P	

連結貸借対照表

(億円)

		2022年 期 末	2023年 期 末	増減額	主な増減内訳
資産の部	流動資産	506.4	509.4	+3.0	【流動】現金及び預金：△6.4 【流動】売上債権：+7.8
	固定資産	395.9	493.2	+97.3	【固定】有形固定資産：+66.4 【固定】投資有価証券：+21.4
	資産合計	902.3	1,002.7	+100.3	
負債の部	流動負債	295.0	340.7	+45.6	【流動】仕入債務：△5.1 【流動】設備関係電子記録債務：+18.8
	固定負債	51.3	53.2	+1.9	【流動】未払金：+10.7 【流動】その他流動負債：+22.7
	負債合計	346.4	394.0	+47.6	
純資産の部	純資産合計	555.9	608.6	+52.7	利益剰余金：+33.0 有価証券評価差額金：+15.1
自己資本比率		61.6%	60.7%	△0.9P	
借入金残高		23.7	19.0	△4.7	

連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2022年	2023年	2023年キャッシュフローの主な増減要因
現金及び現金同等物 期首残高	97.6	84.4	
営業活動による キャッシュ・フロー	37.0	84.0	税金等調整前当期純利益による資金増：56.8億円 減価償却費による資金増：41.6億円 売上債権の増加による資金減：7.7億円
投資活動による キャッシュ・フロー	△33.1	△ 78.9	新規材料事業における工場及び製造装置等の有形固定資産の取得による資金減
財務活動による キャッシュ・フロー	△17.7	△ 11.9	配当金の支払いによる資金減：10.0億円 借入金の返済による資金減：4.7億円
現金及び現金同等物 期末残高	84.4	78.0	

2024年12月期 業績予想

2

夢がある。技術がある。未来ができる。

経営ビジョンNext10(2030)と中期経営計画(2024)

経営ビジョンNext10(2030)

[注力する領域]

人々の安心で快適な生活を支える事業
食・アグリ、住空間、生活用品、ヘルスケア、医療

環境・エネルギー負荷を軽減する事業
サステナブル材料、減量化、リサイクル、省エネ

情報通信に関する事業
高速通信、フレキシブルデバイス、モビリティ

Next10 (2030)
— 次の10年に向けた「ありたい姿」 —
「要素技術を通じて、
新たな価値を創造し、
お客様から選ばれる
ソリューションパートナー」
お客様の価値向上と
社会課題の解決に貢献し、
事業を通じて、
社会・環境価値を
創出する

社会から
信頼される企業
技術優位な
企業集団

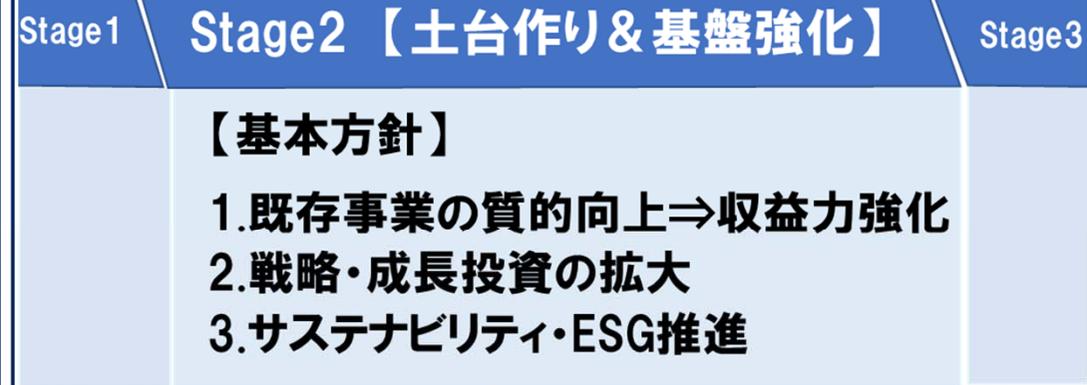
創立75周年



中期経営計画(2024)の位置づけ

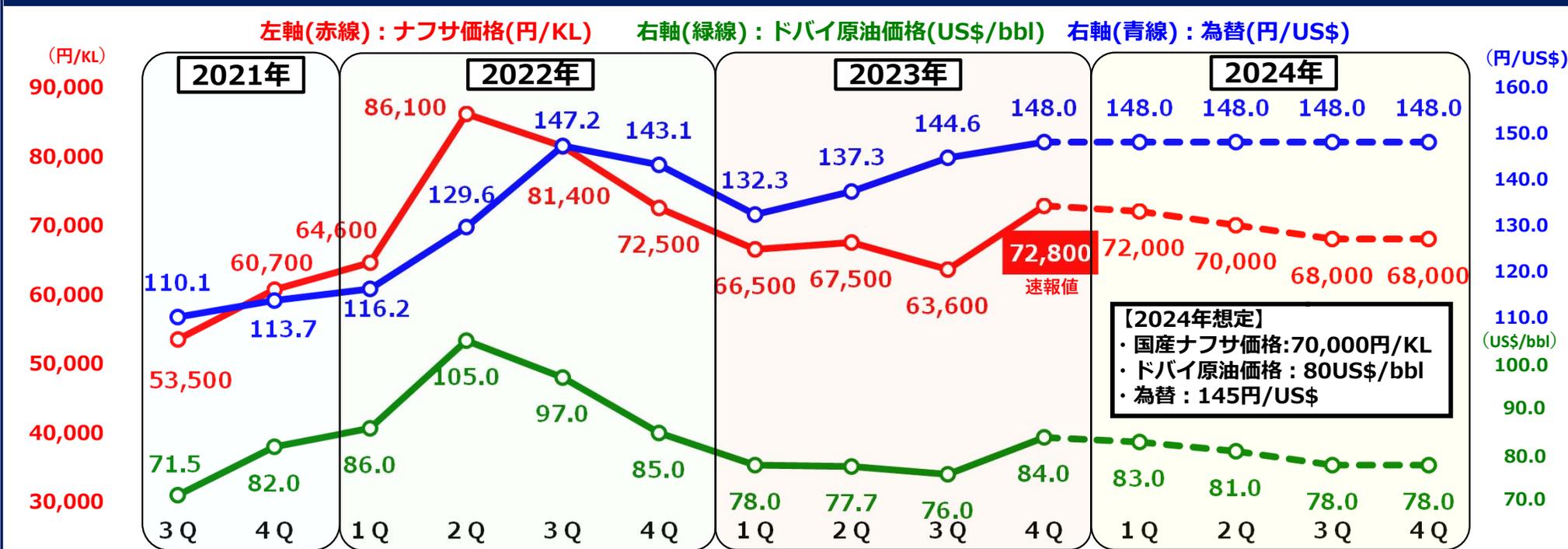
経営ビジョン Next10 (2030)
要素技術を通じて、新たな価値を創造し、
お客様から選ばれるソリューションパートナー

中期経営計画 (2024) の位置づけ
グループビジョン実現へ向けた第2ステージ



2024年の外部環境予想と前提

国産ナフサ価格、ドバイ原油価格及び為替の動向

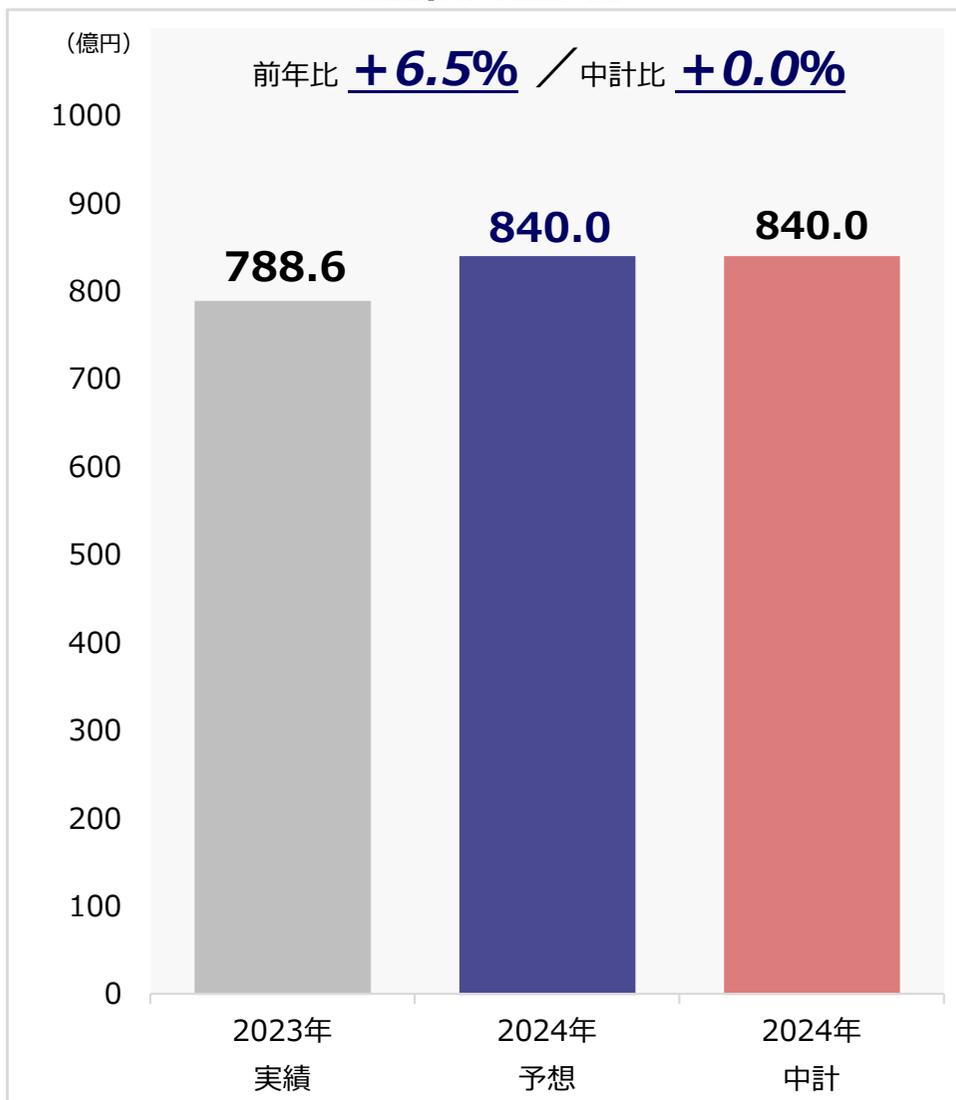


※折れ線グラフ中の点線の値は当社予想値です

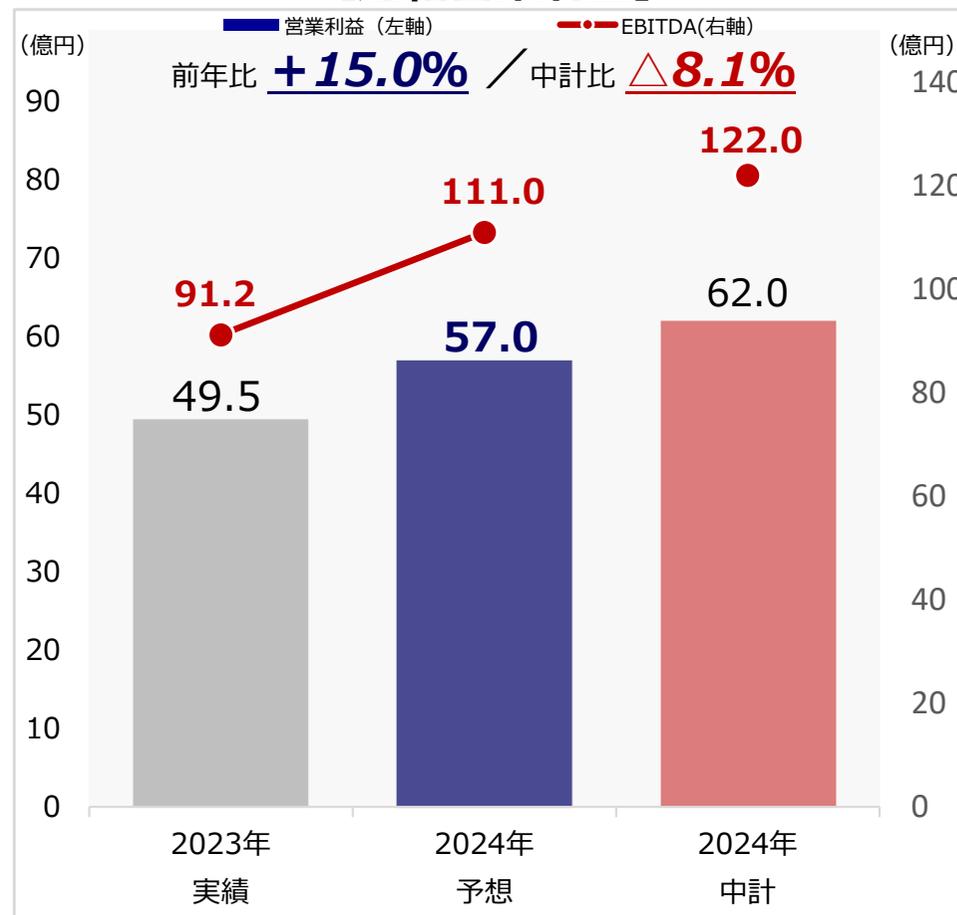
大型ディスプレイ市場	台数の緩やかな成長と、65インチ以上の大画面サイズの拡大により大型ディスプレイの面積需要は着実に増加 ⇒大型ディスプレイ面積需給前年比約7%増、液晶テレビパネル/セット台数需給前年比約3%増
自動車市場	品質問題などにより国内での回復は遅れるが、世界的には前年比4～5%程度増加
個人消費	物価の高止まりにより、昨年からの節約志向が前半まで続く予想
新設住宅着工戸数	マンションは計画・着工ともに堅調に推移する見込みであるが、持家・戸建分譲は大きく減少し、合計の着工戸数は前年並みの84万棟の見通し

業績予想・セグメント別売上高、営業利益

【連結売上高】

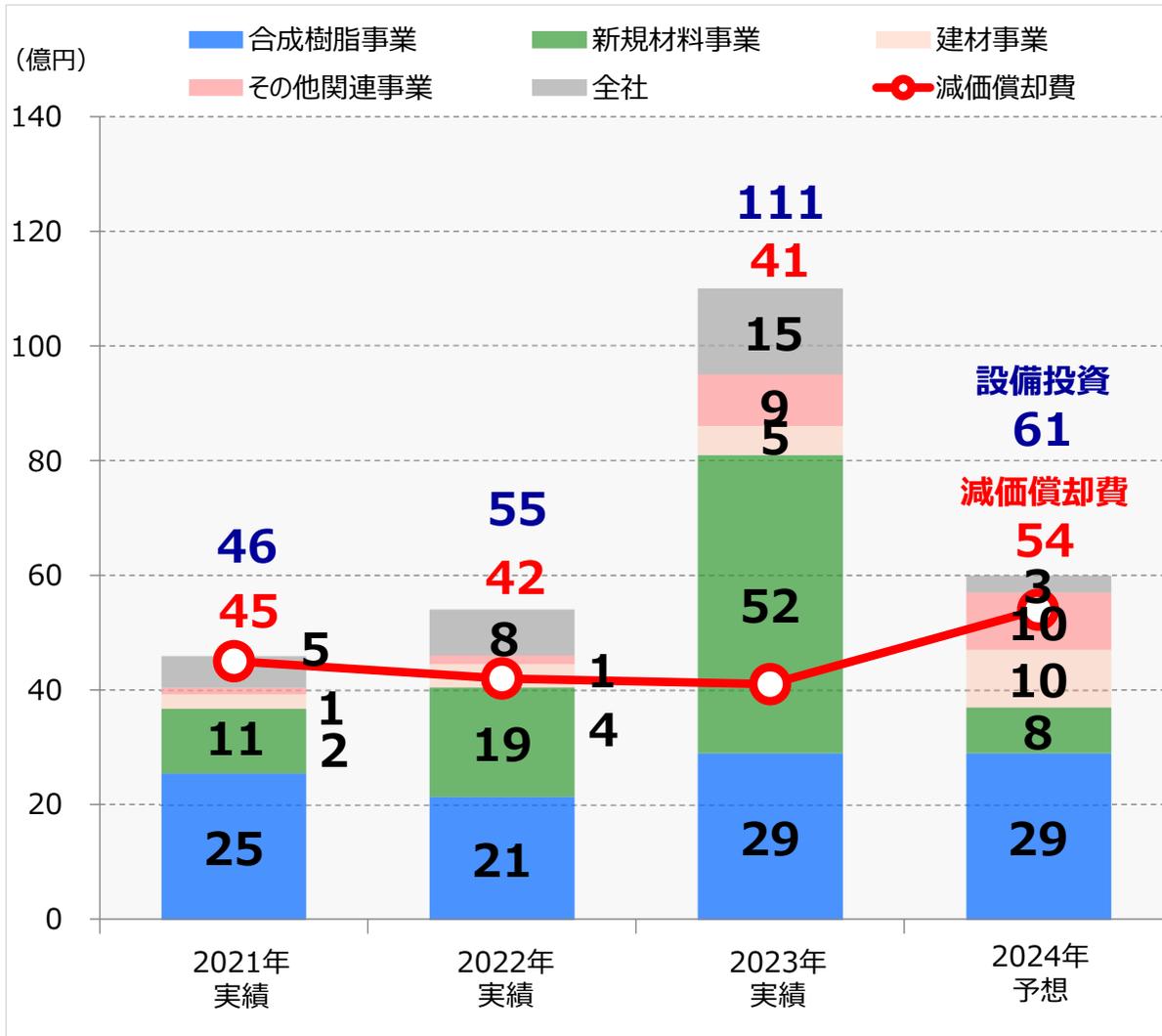


【連結営業利益】



(億円)	2023年実績	2024年予想	前年比
経常利益	54.1	60.0	+10.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	43.1	43.0	△0.4%

設備投資（工事ベース）及び減価償却費



※2021年まで「その他関連事業」に集約していた住宅事業、木材加工事業の投資金額を2022年より「建材事業」に含めております

【2024年計画の主な設備投資案件】

(億円)

案件	2024年計上額	投資総額
四国地域材事業【建材】	6.5	70.0
電池部材生産用に向けたクリーンキャスト機改造【合成樹脂】	1.5	1.5
合成樹脂事業でのDX投資（基幹システム再構築）	4.8	18.0
※オークラベトナム【連結外】	※6.5	※17.5

※オークラベトナムは連結対象外のため連結設備投資に含めておりません

中期経営計画（2024）の投資計画250億円達成に向け、成長投資、戦略投資を中心に計画通り実行

2024年業績予想 セグメント別

【連結売上高】

(億円)

	2023年実績	2024年予想	前年比	2024年中計	中計比
合成樹脂事業	510.0	530.0	+3.9%	530.0	+0.0%
新規材料事業	136.9	164.0	+19.8%	155.0	+5.8%
建材事業	126.1	130.0	+3.1%	130.0	+0.0%
その他関連事業	15.5	16.0	+3.0%	25.0	△36.0%
合計	788.6	840.0	+6.5%	840.0	+0.0%

【連結営業利益】

(億円)

	2023年実績	2024年予想	前年比	2024年中計	中計比
合成樹脂事業	41.4	47.0	+13.4%	50.0	△6.0%
新規材料事業	18.5	21.0	+13.3%	24.0	△12.5%
建材事業	9.0	9.0	△0.1%	8.0	+12.5%
その他関連事業	4.5	4.0	△12.3%	4.0	+0.0%
全社費用	△23.9	△ 24.0	—	△24.0	—
合計	49.5	57.0	+15.0%	62.0	△8.1%

合成樹脂事業 今期の取組み

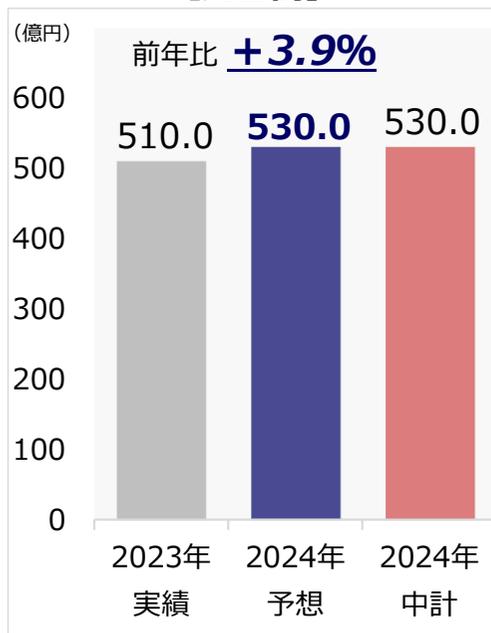
今期の課題

1. プロセス機能材料の拡販・開発
2. 環境貢献製品 (Caerula®) の拡大 (バイオ、生分解、リサイクル、薄膜品など)

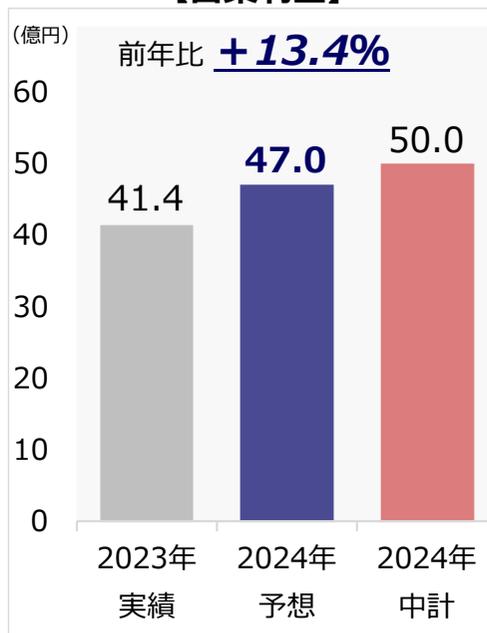
重点取組み

- 製膜技術を活かした自動車関連製品の拡販、伸長が見込まれる電池市場への新アイテム投入
- 販売数量の拡販 (衛生材料用、農業用マルチフィルム)
- 環境貢献製品の拡販、薄膜化、PIR、PCR原料の活用

【売上高】



【営業利益】



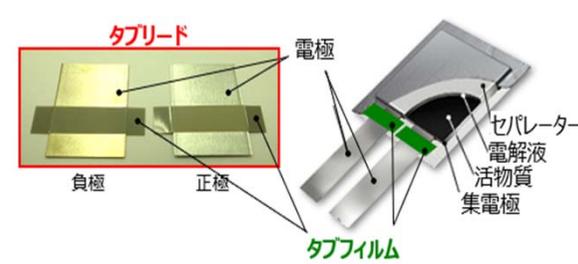
【耐熱マスキング】



【省之助®Ver. II】



【反射天井材】



【TABフィルム】

新規材料事業 今期の取組み

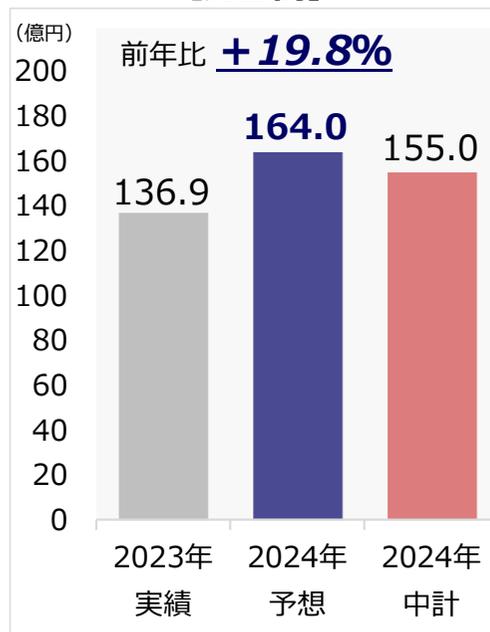
今期の課題

1. 仲南地区新工場（H棟）での広幅光学フィルム製造装置（G2ライン）の安定稼働
2. 海外拠点の確立

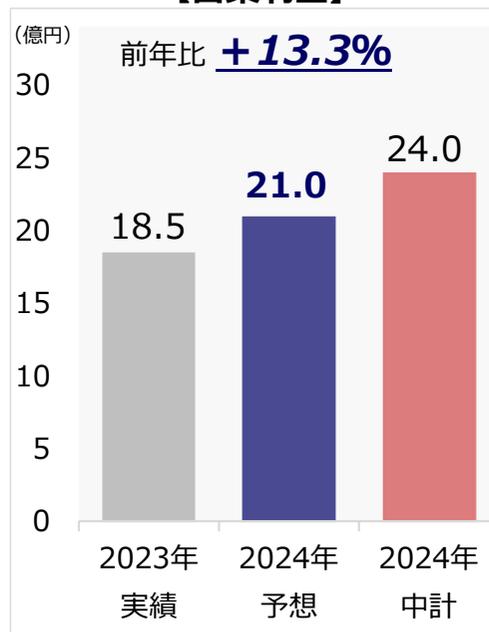
重点取組み

- 大型液晶パネル向け広幅光学フィルムの拡販（新G2ライン導入で年間生産量は2倍）
- 機能材料BUの自動車材料製品の拡販
- オークラベトナムへの接着剤事業の製造拠点移管

【売上高】



【営業利益】



【広幅アクリルフィルム新工場(H棟)】



【ペイントプロテクションフィルム】



【OKURA VIETNAM CO., LTD】
新工場イメージ図】

建材事業 今期の取組み

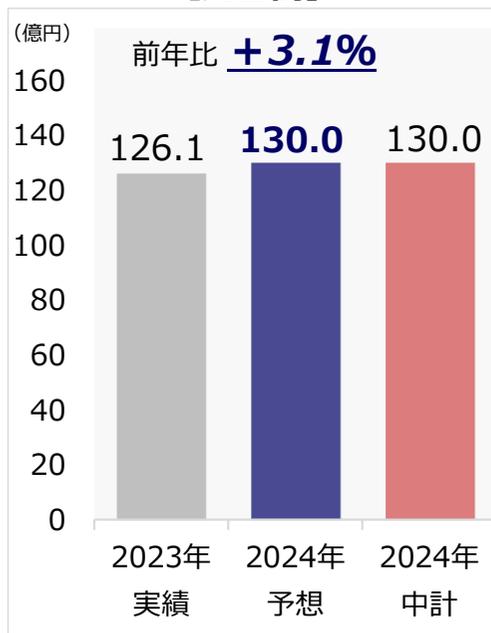
今期の課題

1. 加工ボードの拡販
2. 環境貢献型枠「木守®」の拡販
3. プレカットの非住宅分野への拡大
4. 省施工パネルの拡販

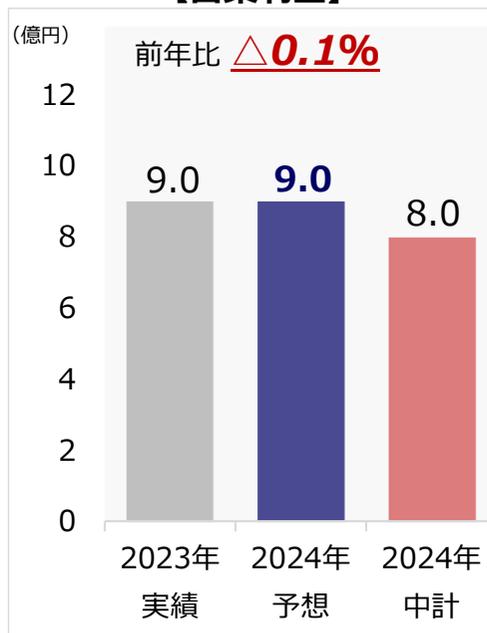
重点取組み

- ダイニングキッチン、洗面用途を中心とした加工ボードの拡販
- エリア型枠組合、土木工事組合への環境貢献型枠「木守®」拡販に注力
- プレカットは商業ビル、公共施設、小売り店舗等の非住宅物件をターゲットに拡販

【売上高】



【営業利益】



【加工ボード】



【環境貢献型枠「木守®」】



【プレカット非住宅物件】



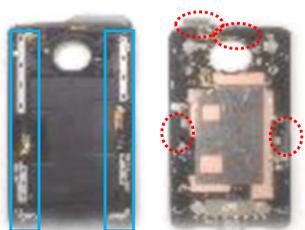
【省施工パネル】

R&Dセンター 今期の取組み

情報電子

第5世代移动通信システム（5G）向け 高周波基板用フィルム

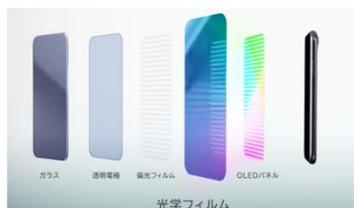
次世代通信規格5Gで要求される
伝送損失が低く、耐熱性・寸法安定性に
優れたフィルム



5Gスマートフォン

高機能ディスプレイ材料

精密塗工技術を活用した機能性フィルム



環境・エネルギー

ケミカルリサイクル

市場回収した廃プラスチックの
リサイクル



エネルギー関連部材

次世代太陽電池部材
電気自動車用材料



Agナノワイヤーフィルム

太陽電池電極

ライフサイエンス

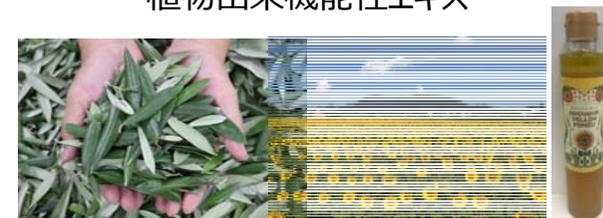
バイオ医薬品、再生医療用 シングルユースバッグ

バイオ医薬品や再生医療分野での
細胞培養工程で使用されるバッグ



植物加工技術を活用した ヘルスケア、 スキンケア用原料

植物由来機能性エキス

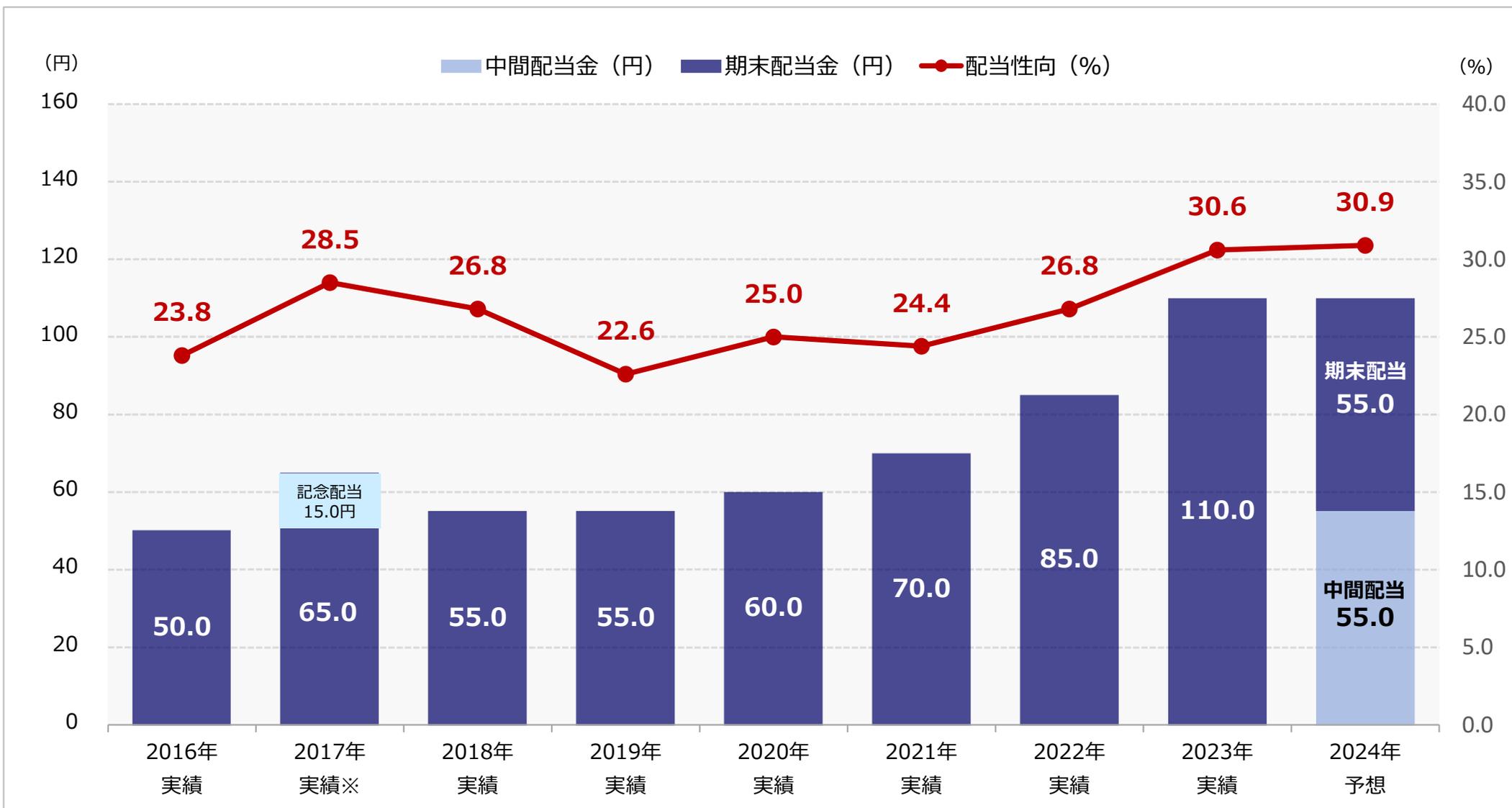


黄色いひまわりぼん酢

【2024年研究開発費】

R & Dセンター、合成樹脂事業部商品開発部等で総額14.6億円の見込み

株主還元



※記念配当を含む

サステナビリティの推進

3

夢がある。技術がある。未_レ来_レができる。

当社のサステナビリティ

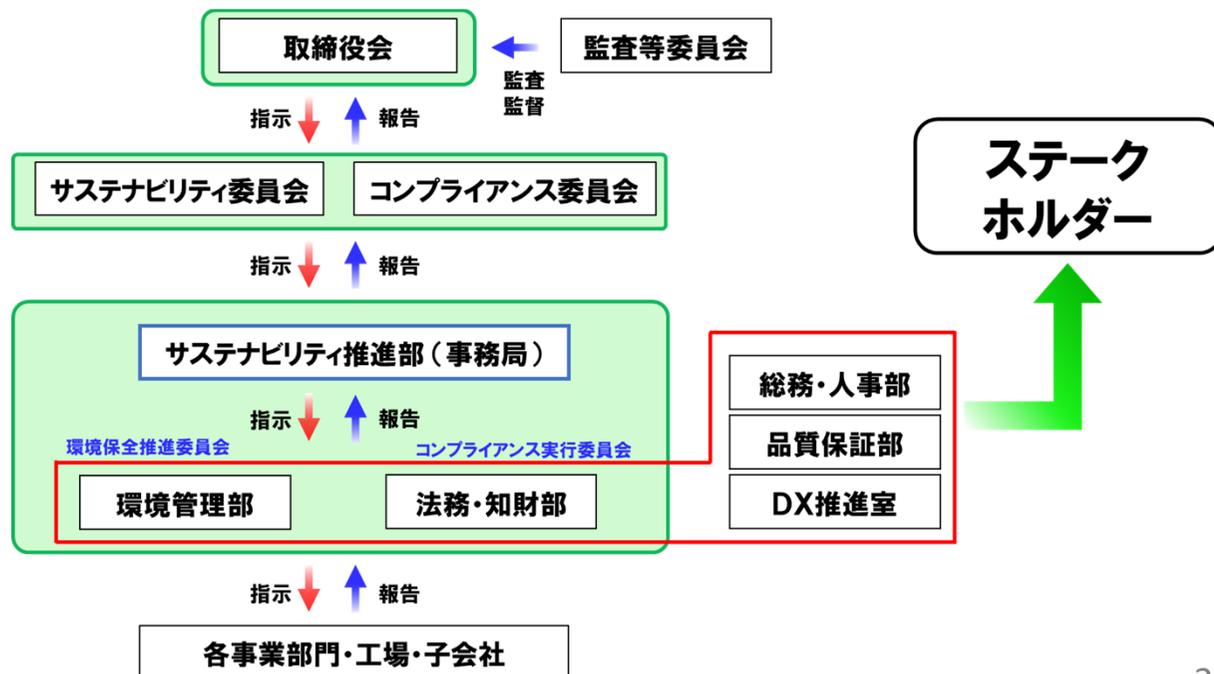
サステナビリティ基本方針

「社会から信頼される企業」であり続けるために、事業を通じて、社会との共生を念頭に企業の成長を目指す

サステナビリティ基本原則

1. 事業とESGの両立
2. 地球環境の保全
3. 法令順守・人権尊重と労働環境の配慮
4. 情報開示と対話

サステナビリティ推進体制



当社サステナビリティ取組みの評価

CDP 2023年評価結果



気候変動 B スコア **水セキュリティ B スコア**

重要課題「マテリアリティ」の中で、「脱炭素経営（気候変動対策）の推進」、「資源循環対策の更なる推進」、「環境貢献製品の創出と拡大」を掲げ、取組みを推進しています。当社Gは気候変動を喫緊の課題と捉え、対策を推進するとともに積極的な情報開示を推進してまいります。

スコア	レベル	
A～A-	リーダーシップ	課題の適応・緩和、脱炭素社会の構築に先導的
B～B-	マネジメント	気候リスクや影響の管理、取組実施
C～C-	認識	自社の現状認識、どのような影響があるかの理解
D～D-	情報開示	質問に関する 自社情報の記載

スコア平均	気候変動	水セキュリティ
プラスチック製品製造	C	C
アジア企業	C	C
グローバル企業	C	C

※回答企業(うち日本)：約23,000社(約2,000社)

サステナビリティの推進 E:環境

Environment : 環境

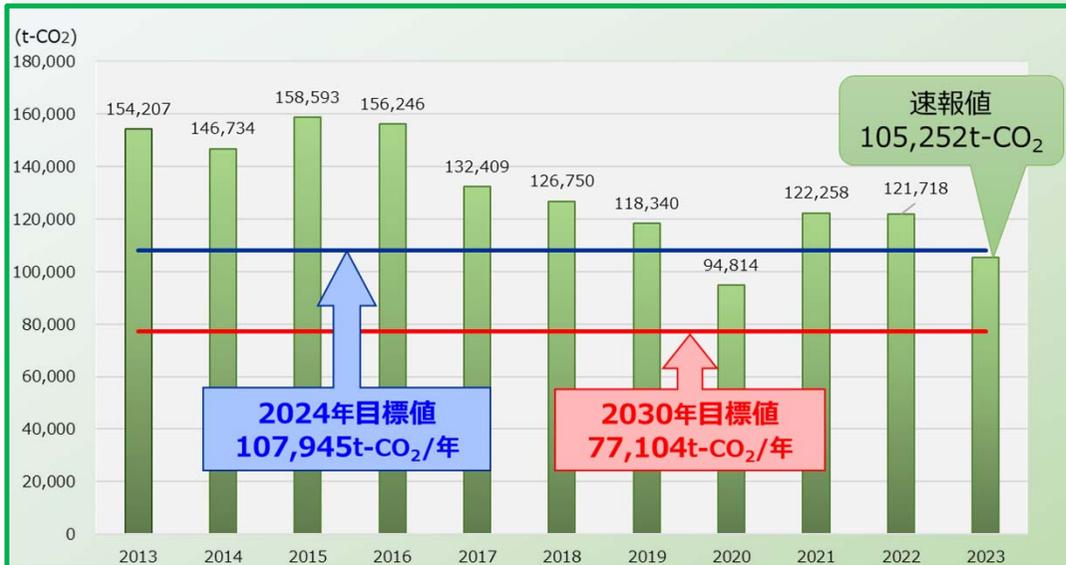
2024年目標

CO₂排出量:30%以上削減(対2013年度比)
 市場回収廃プラリサイクル製品売上:10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50%以上



脱炭素経営(気候変動対策)の推進

CO₂排出量推移状況



2023年:2024年目標を達成

□対2021年(基準年)比 ▲14%
 (対2013年比 ▲32%に相当)

太陽光発電導入状況

拠点	消費電力量 (MWh/年)	稼働開始 /稼働予定
本社(D棟)	1,189	2023年4月～
KSオークラ	476	2023年2月～
九州オークラ	1,009	2023年7月～
詫間工場	2,638	2024年2月～
本社(C棟)	676	2024年2月～
丸亀第四工場	1,947	2025年1Q予定
まんのう地区	3,702	2025年2Q予定

□太陽光発電によるCO₂排出削減量

全稼働時予測: 約5,300 t-CO₂/年
 2023年実績: 約 870 t-CO₂/年

サステナビリティの推進 E:環境

Environment : 環境

2024年目標

CO₂排出量:30%以上削減(対2013年度比)
 市場回収廃プラリサイクル製品売上:10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50%以上

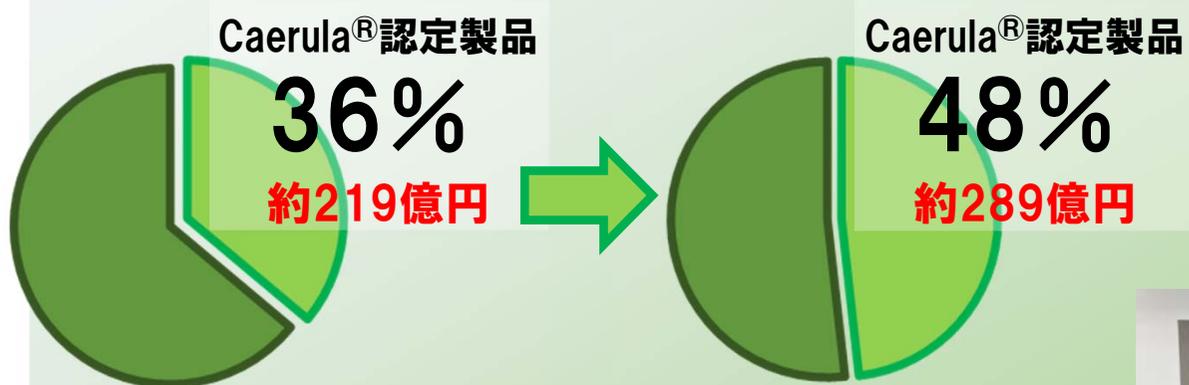


環境貢献製品の創出と拡大

生活サポート群関連製品

2022年
売上高実績

2023年
売上高実績



2024年目標 50%以上
目標達成見込み

■環境貢献製品「Caerula[®](カエルラ)」

- リサイクルPP化粧フィルム
- リサイクル自治体ゴミ袋
- OKホール[®]
- エスペラン[®]
- ハロゲンフリー偏光板



リサイクル自治体ゴミ袋



リサイクルPP化粧フィルム



OKホール[®]



ハロゲンフリー偏光板

サステナビリティの推進 E:環境

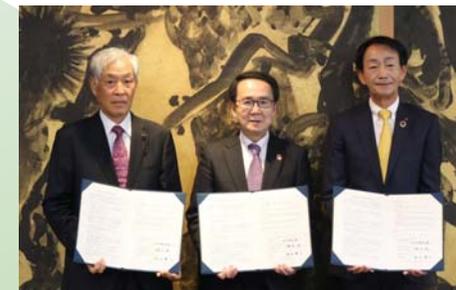
Environment : 環境

2024年目標

- CO₂排出量:30%以上削減(対2013年度比)
- 市場回収廃プラリサイクル製品売上:10億円以上
- 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50%以上

脱炭素経営(気候変動対策)の推進

- 森林資源循環利用に向けた集成材事業への進出
- 香川県産材や四国地域材を活用
- 原木から集成材販売までの一貫通貫のサプライチェーンの構築
- 香川県、香川県森林組合連合会との協定
- 三豊市、まんのう町と「地域活性化包括連携協定」の締結



新工場の完成イメージ



集成材



プレカット加工

環境貢献製品の創出と拡大

- ISCC PLUS 認証取得
- 認定取得済
- 合成樹脂事業部 丸亀第四工場、仲南工場、事業開発部
- シュリンクフィルム及び油化事業においてマスバランス方式を導入予定



サステナビリティの推進【S：社会】

Social：社会

2030年目標
 ダイバーシティ経営の実現
 積極的に地域社会活動・イベントへ参加する文化の構築
 新しい顧客価値の創出
 ビジネスモデルの転換



ダイバーシティ

※1 各年12月末現在

	2022年	2023年
女性社員構成比※1	16.0%	17.4% ↑
女性役職者構成比※1	10.8%	11.1% ↑
新卒女性比率	25.9%	38.4% ↑
障がい者雇用率	2.4%	2.6% ↑

健康経営

□「健康経営優良法人2023」に認定

→「健康経営優良法人2024」認定予定(3月)

S：社会WGの定期開催

→ 女性分科会の定期開催

- 問題点の洗い出し
- 改正育児・介護休業法勉強会
- 意識改革調査

女性活躍社会環境構築の推進



サステナビリティの推進【S：社会】

Social：社会

2030年目標

ダイバーシティ経営の実現

積極的に地域社会活動・イベントへ参加する文化の構築

新しい顧客価値の創出
ビジネスモデルの転換



人的資本への投資を拡大(人材の育成と強化)

リーダーを中核とした活力ある組織へ

主な研修

- ① 未来塾・コーチング研修
- ② 職種別（営業・技術）研修
- ③ ラインケア・DI&E研修

- ・ 中長期的視点で職場改善につなげるスキル
- ・ 多様性を活かすマネジメント
- ・ フィードバック面談手法

DX人材の育成

主な研修

- ① DXリテラシー標準入門教育
- ② DXテクニカル教育等

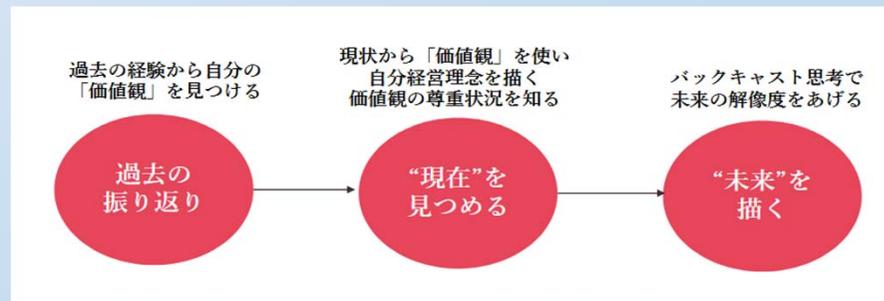
- ・ DXの活用事例やマインドスタンスの理解
- ・ 業務改善、生産性向上に繋がるスキル

女性が活躍できる会社・組織へ

主な研修

- ① セルフリーダーシップ研修
- ② リーダーシップ研修

- ・ 自分のありたい姿を明確にする
- ・ 中長期のキャリアプランの作成
- ・ コミュニケーションスキル



約3億円の投資を想定

資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応について

4

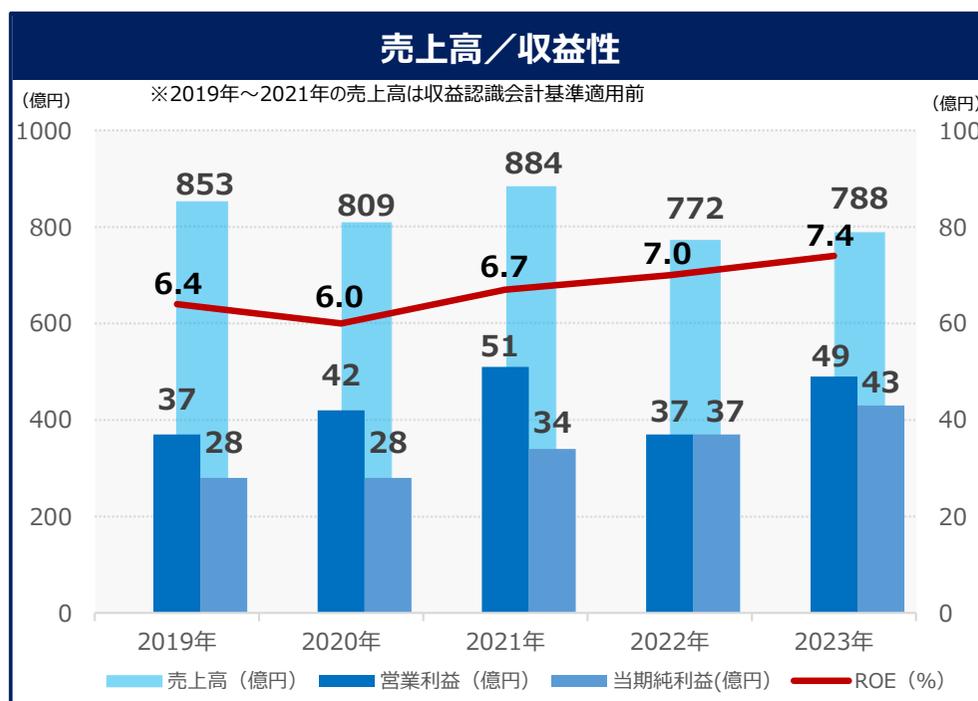
夢がある。技術がある。未_レ来_レができる。

現状認識

当期純利益は2021年から3か年連続で増益となり、2023年は過去最高利益を達成したが、PBR1倍割れが継続

<要因>

- ① ROEは上昇傾向にあり、2023年は7.4%まで上昇したものの、自己資本の積み上がりもあり、株主資本コストを下回る水準にある
- ② 成長性について株主・投資家の皆様の理解を十分に得られていない



➤ 資本コストや株価を意識した経営を推し進め、企業価値向上の実現に努めます

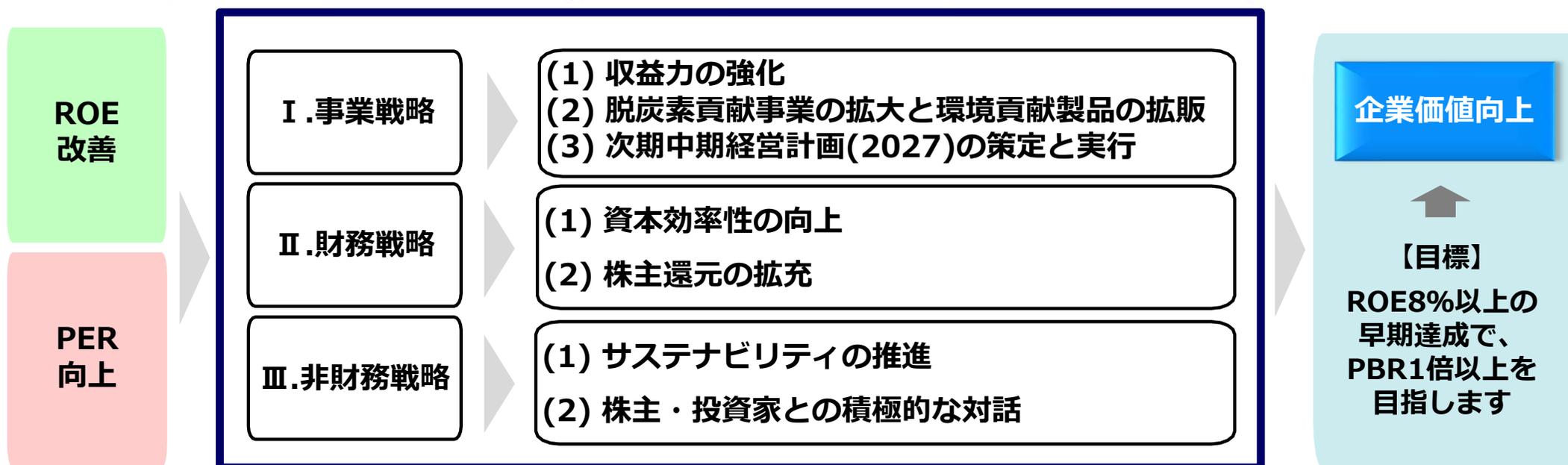
改善に向けた方針、取り組み

➤ 早期のROE8%以上の達成を念頭に「事業戦略」「財務戦略」「非財務戦略」の各課題を解決することでPBR1倍以上を目指します

- 【事業戦略】 中期経営計画(2024)の総仕上げと中期経営計画(2027)の策定
- 【財務戦略】 資本構成バランスの最適化を図り、資本効率性の向上に取り組む
- 【非財務戦略】 サステナビリティの推進と株主・投資家との積極的な対話

$$\text{PBR} = \frac{\text{株価 (株式時価総額)}}{\text{1株あたり純資産 (純資産額)}} = \left(\frac{\text{ROE}}{\text{1株あたり純利益 (当期純利益)}} \times \frac{\text{PER}}{\text{1株あたり純利益 (当期純利益)}} \right)$$

ROE (経営の効率性、収益性) × PER (企業の成長期待)



免責事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

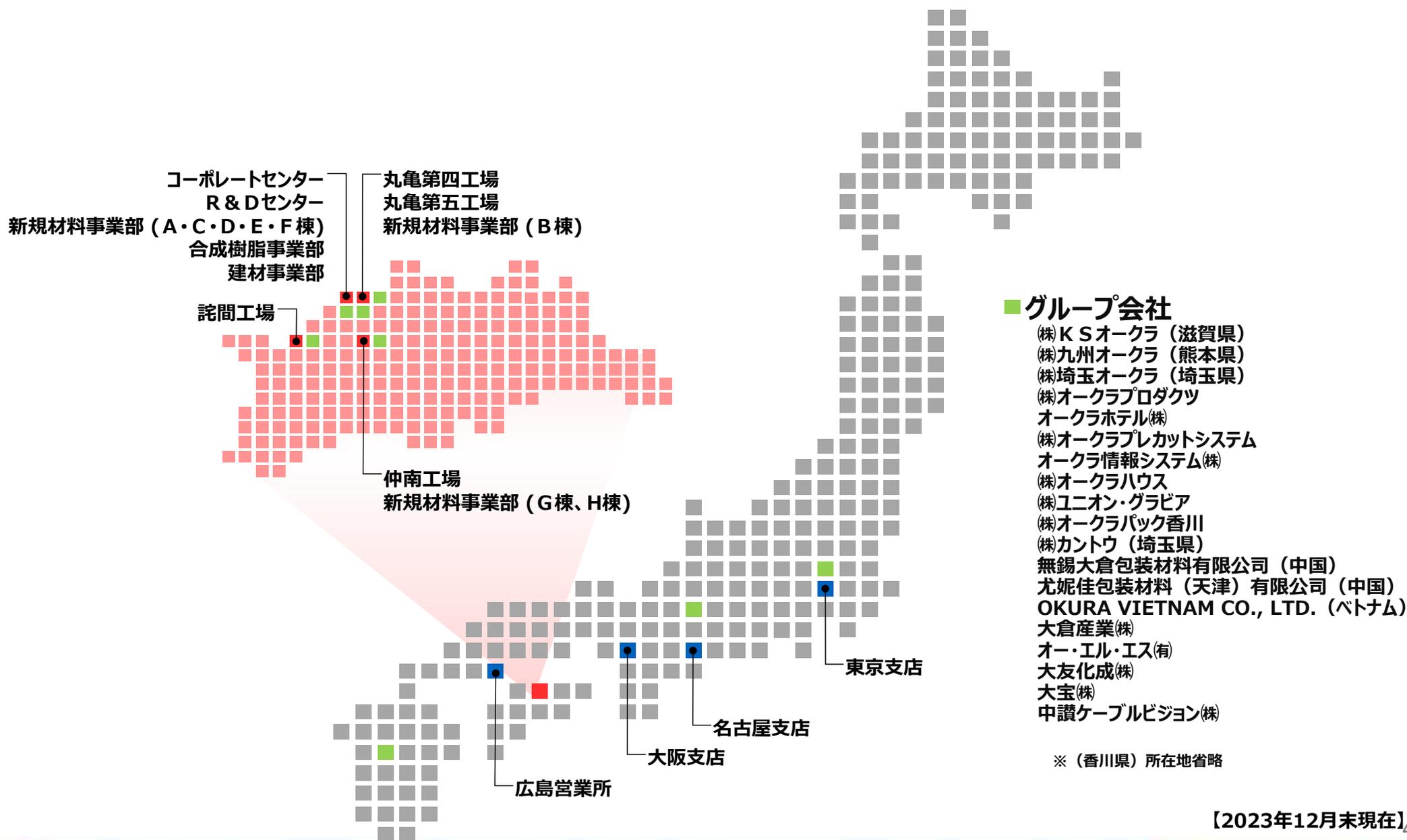
本資料は、情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の売買を勧誘することを目的としたものではありません。

参考資料

5

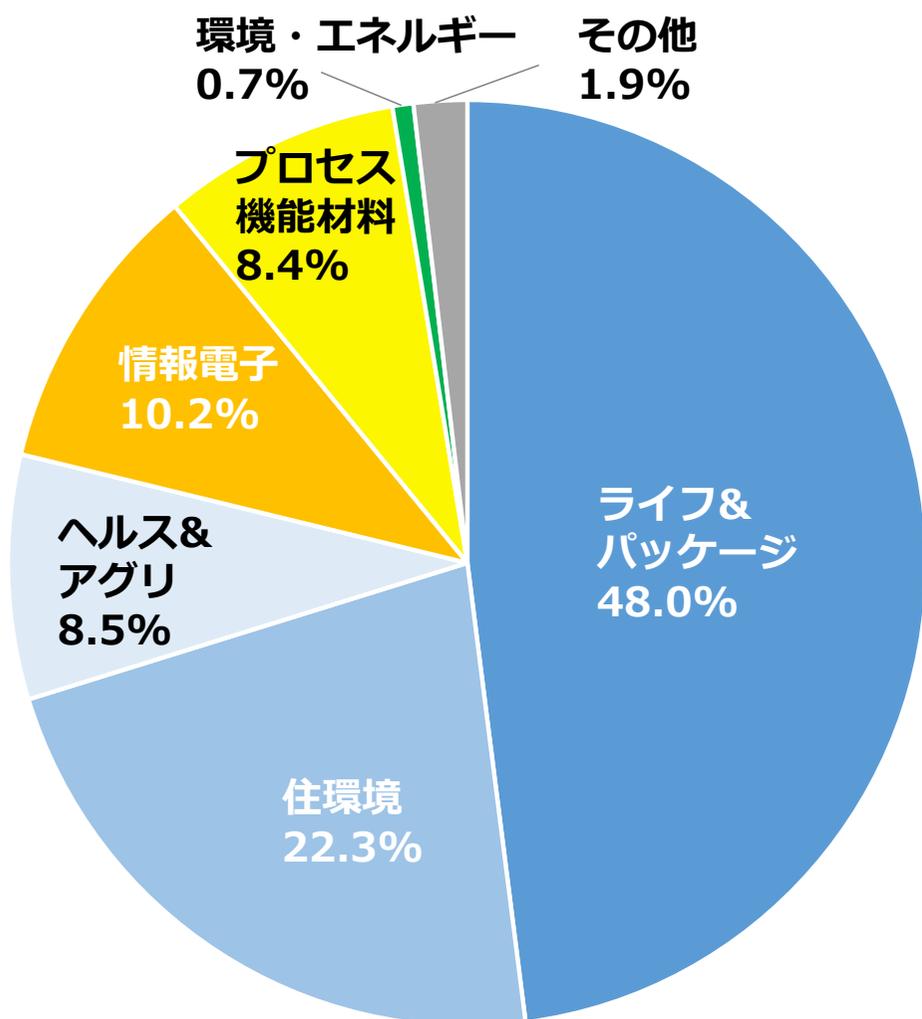
夢がある。技術がある。未_レ来_レができる。

当社の事業所とグループ会社

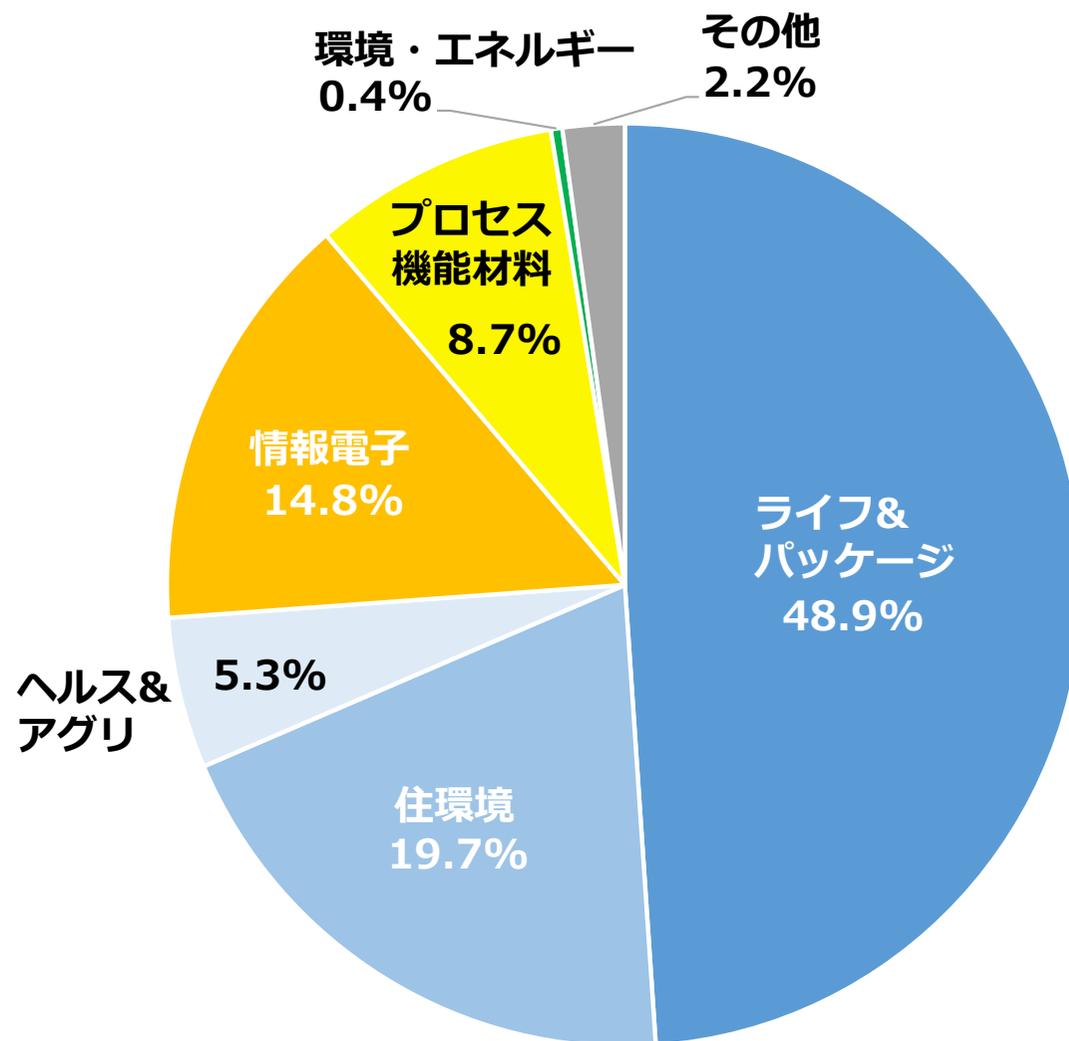


セグメント別、領域別売上高比率

2022年実績



2023年実績



事業紹介

【合成樹脂事業】

ライフ&パッケージBU シュリンクフィルム

中間物流用の重量物包装や集積包装、食品を直接包装するものなど、オリジナルのデザインや形状を生かしたまま、商品をより美しく安全に包み込む。用途に応じた独自の機能を付与すると共に、印刷などの二次加工や包装システムなどを提案。

軟包材

ナイロン・ポリエステル・ポリエチレンなどのさまざまなフィルムを貼り合わせることにより、それぞれの特性を活かした機能的な複合フィルムのこと。冷凍食品の包装やIC基盤の保護用フィルム、詰め替え用のスパウト付きラミネート袋など、身近なところから最先端の電子材料にまで幅広く提供。

リキッドパック

液体包装容器の総称であり、段ボール箱内で使用されるバッグインボックスとドラム缶内で使用されるバッグインドラムに大別される。醤油などの食料品や化学薬品などの液体輸送の合理化に寄与。

【用途例】

乳酸菌飲料集積用、カップ麺、酒パック等の包装フィルム、食品トレイ包装用バリアフィルム



【用途例】

食品、洗剤、柔軟剤、シャンプー、ペットフード、お菓子等



【用途例】

ミネラルウォーター、油脂加工製品、調味液（醤油、ソース等）、液体肥料、液体洗剤、接着剤



事業紹介

【合成樹脂事業】

プロセスマテリアルBU

電子・エネルギー・住宅・メディカルなど様々な分野の主材や基材を提供。液晶パネルに使用される位相差フィルムの保護用フィルムなど、独自の樹脂ブレンドノウハウ・高い製膜技術・徹底した品質管理で最適なソリューションを提供。

【用途例】

光学、電子、電気製品、自動車、ユニットバス壁面、ドア・クローゼット・床などの建装材など



ベーシックマテリアルBU

規格袋・ごみ袋・包装/梱包荷材など、各種既製品はもとより、食品・衛生材料・家庭紙・日用雑貨・産業資材・医薬・洗剤・化粧品・印刷出版物など幅広い分野で製品の包装に使われているポリエチレンフィルムを提供。

【用途例】

規格袋、日用品、食品用パッケージフィルム、衛生材料用フィルム



アグリマテリアルBU

農業用の機能性フィルムであり、全国の農家から親しまれている製品。農作業の省力化と作物の収穫増のために、保温・地温上昇抑制・害虫忌避・抗菌・生分解といったさまざまな機能を持つ製品をラインアップ。

【用途例】

農業用フィルム、肥料の保存



事業紹介

【新規材料事業】

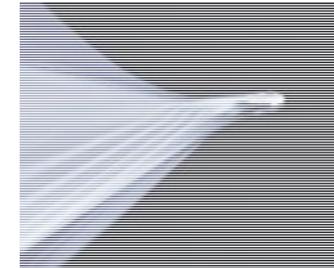
機能材料BU

TPEチーム（ウレタンフィルム）

機械的・化学的・電氣的等著しい機能を持つウレタンやフッ素系等の単層、多層フィルムをメディカル分野や自動車部品メーカー等に提供。

【用途例】

創傷用被覆保護ドレッシング
プリント接着用シート
印刷転写用シート
ヘッドレスト
ペイントプロテクションフィルム



BLTチーム（シームレスベルト・樹脂被覆ローラ）

プリンター等の画像情報機器に必要な電子機能を持つベルトやチューブをプリンター・複写機メーカーに提供。

【製品種類】

LBP用中間転写ベルト
クリーニングローラ
転写ローラ



ADHチーム（アクリル接着剤）

3タイプの硬化機構の無溶剤型アクリル接着剤を車輛・電気・鋼板・鋳型模型からゴルフクラブまで幅広い市場に提供。

【用途例】

モーターマグネット(電気自動車部品)
塗装鋼板
ゴルフクラブ
鋳型模型



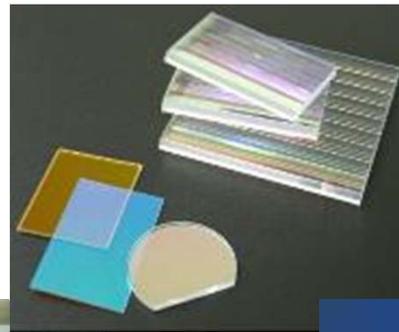
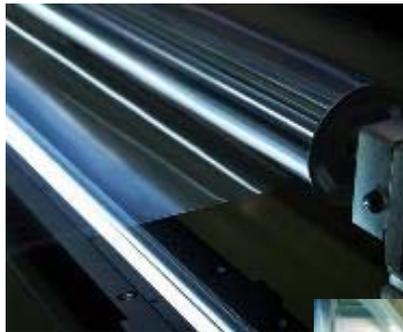
事業紹介

【新規材料事業】

電子材料BU（加工）、光学材料BU（製膜延伸）

MNTチーム、KEチーム、PLMチーム、CTチーム、MCSTRチーム

大型から中小型サイズの液晶ディスプレイを始め、タッチパネルや液晶プロジェクター等、電子表示体のキーマテリアルとなる各種光学機能性フィルムをFPDメーカー等に提供。



事業紹介

【建材事業】

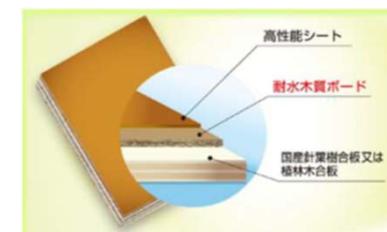
木質ボード事業：パーティクルボード（素板）

木質廃材を細かくしたチップに接着剤などを混ぜた原料を高温でプレスし固めたパーティクルボード。木質廃材を焼却せず製品としてリサイクルしており、二酸化炭素の排出を抑制し、地球温暖化の防止に寄与。



土木・建設資材事業：環境貢献型枠（木守®）

国産針葉樹合板又は植林木合板に、平滑性に優れた耐水木質ボードを練り合わせ、表面に高性能シートをラミネートしたコンクリート型枠用合板。ラワン型枠用合板と比較しても強度、耐久性など同等の品質、性能をもっている。



住宅部材事業：省施工構造断熱パネル

構造用耐力面材と断熱材などが全てセットになっている。パネル施工と同時に断熱工事が完了するため、日数の短縮、職人や大工の労力軽減に繋がる。



建築・土地造成事業：株式会社オークラハウス

香川県丸亀市に本社があり、県内の新築、リフォームを手掛ける。エネルギー収支ゼロを目指したゼロ・エネルギー住宅や国土交通省が定めた耐震性能最高等級「耐震等級3」相当で建てるなど、快適に安心して長く住んでもらう住宅を提供。



木材加工事業：株式会社オークラプレカットシステム

香川県丸亀市に本社があり、木造建屋宅用構造材加工（プレカット加工）及び木造建屋用資材（建築金物・基礎素材等）の仕入販売を行っている。よりよい家を作るために、数々の建築データを基に、安全に現場での作業を迅速に行えるプレカットされた木材を、日々つくり続けている。



事業紹介

【その他関連事業】

ホテル事業：オークラホテル株式会社

香川県丸亀市に本社があり、オークラホテル丸亀を営業。
オークラホテル丸亀は瀬戸内海を一望する最高のロケーションで
ビジネスや観光の拠点に便利な立地。



情報処理事業：オークラ情報システム株式会社

香川県丸亀市に本社があり、ソフトウェア開発やコンピュータシステムの運用、保守パッケージソフトの製造・販売、コンピュータ機器販売を手掛けている。ニーズを拾い上げ、形にするまでトータルでサポート。



当社の強み

さまざまな分野・業界への 製品対応力

様々な業界のお客様とのお取引により
多様化するニーズにマッチした製品を
高い技術力を生かし供給し続けています。



当社の強み

材料設計開発

ポリマーブレンドアロイ
有機無機ハイブリッド
重合、多層化



加工技術

製膜、延伸、塗工、印刷、
貼合、加圧、抽出、+α



用途・形態・使用条件にマッチした材料と
製造プロセスでお客様のご要求に対応

大倉工業の沿革 | 戦災後の混乱期からの出発

創業の意義 【創業者 松田 正二】

高松、倉敷飛行機勤務時に終戦を迎え、80数名の従業員の生活を守ることと、戦後社会の復興と人々の役立つ為に事業を起こす

世の為 = 社会に役立つ

人の為 = 従業員を守り、人々に役立つ

復興に不可欠な住宅とその材料販売で創業



高松製材所の風景



木材市売の四国住宅の頃

1945	岡内製材所として製材・小型の復興住宅を販売
1947	四国住宅株式会社を設立 ⇒ 創立記念日
1949	高松(東浜町)にて木材市売りを開始
1951	四国実業株式会社に商号変更 倉敷ビニロンを発売
1952	丸亀(城西町)にて木材市売りを開始
1955	ポリエチレン加工に着目し製造装置を購入

大倉工業の沿革 | 第一期【黎明】偉大な歩み

国内に原料メーカーが無い中で、ポリエチレンフィルムの将来性に着目

当該事業の開始を機に社名(商号)変更

長年勤務しお世話になった倉敷紡績と大原社長から一字ずつ戴く

倉敷紡績 社長

大原総一郎氏

倉敷紡績株式会社



高松本社ビル

1955	【全体】大倉工業株式会社に商号変更
1956	【合成】ポリエチレンフィルム本格生産(港町)
1959	【合成】東京工場操業開始 その後、大阪工場、福岡工場を立て続けに建設
1962	【全体】大阪証券取引所第2部市場に株式上場 【合成】本社工場操業開始 【建材】ラワン合板事業に進出
1964	【合成】岡山工場、熊本工場、静岡工場を建設 【建材】プリント合板製造開始
1967	【合成】埼玉工場操業開始



本社工場構内

大倉工業の沿革 | 事業の拡大

1968	【建材】 詫間工場操業開始、【他】 冷凍倉庫事業開始
1970	【全体】 東京・大阪両証券取引所第1部市場に株式上場
1971	【建材】 パーティクルボード製造開始
1972	【全体】 本社を香川県丸亀市に移転
1973	【他】 四国初のマンション(大倉マンション)建設 「オークラホテル高松」をオープン
1977	【合成】 丸亀第四工場操業開始
1987	新規材料事業部を新設
1988	【他】 「オークラホテル丸亀」がオープン
1992	オークラ情報システム(株)設立 【合成】 製版会社(株)ユニオン・グラビア設立 丸亀第五工場操業開始
1995	中国に「無錫大倉包装材料有限公司」を設立 【合成】 仲南工場操業開始
1996	【建材】 詫間工場で爆発事故



建設中の詫間工場
パーティクルボードライン



オークラホテル丸亀



新規材料事業部(A棟)

大倉工業の沿革 | 新たな事業で拡大

液晶ディスプレイ用光学フィルムの事業拡大

2000	【新規】 光学フィルム工場C棟操業開始 偏光板事業「オー・エル・エス(有)」を設立
2001	【合成】 福岡・熊本の2工場を統合し九州工場操業開始
2004	【新規】 光学フィルム工場D棟操業開始 【合成】 「(株)九州オークラ」を設立
2006	【合成】 「(株)OKプロダクツ岡山」、 「(株)オークラプロダクツ香川」を設立
2007	R&Dセンターを新設 【合成】 「(株)関西オークラ」、「(株)関東オークラ」を設立
2009	【他】 「(株)オークラプレカットシステム」を設立



新規材料事業部(C棟)



新規材料事業部(D棟)

大倉工業の沿革 | 技術優位な企業集団を目指して

経営品質を高め、技術優位な企業へ 経営基盤を強化し、要素技術を進化させる

2012	【合成】「尤妮佳包装材料（天津）有限公司」を設立 【建材】パーティクルボードJIS認証取り消し
2013	第四次中期経営計画スタート JIS認定再取得
2014	【新規】仲南G棟操業開始 オー・エル・エス新ライン増設 【合成】関西オークラ新工場(第3工場)操業開始
2016	第五次中期経営計画スタート 監査等委員会設置会社に移行
2017	会社創立70周年
2018	代表取締役交代
2019	【合成】「(株)埼玉オークラ」を設立
2022	【合成】「(株)KSオークラ」を設立
2023	【新規】「OKURA VIETNAM CO., LTD.」を設立



新規材料事業部(仲南G棟)
10.5世代パネル対応の
最新工場



新規材料事業部「OKURA VIETNAM CO., LTD.」
新工場イメージ図

2023年12月期 決算説明資料

2024年2月21日
大倉工業株式会社



END